

授業科目名： 情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤山郁夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【テーマ】</p> <p>現代社会に生じている諸現象を概観するとともに、グループディスカッションを通して、私たちの目指す社会像を明確化する。最終的には社会問題の定式化（問題-目標-解決策-実行の全体構造を理解すること）を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>・情報の扱い方に関して現代社会に生じている問題を定式化した上で、他者にわかりやすく説明することができる。</p>			
授業の概要			
現代社会に生じている諸現象を概観するとともに、グループディスカッションを通して、私たちの目指す社会像を明確化する。最終的には社会問題の定式化（問題-目標-解決策-実行の全体構造を理解すること）を目指す。			
授業計画			
第1回 ガイダンス、私たちの目指す社会とは [講義・演習]			
第2回 ビジョンをつくる (1): 事例収集 [講義・演習]			
第3回 ビジョンをつくる (2): 私のビジョン [講義・演習]			
第4回 人間の情報処理 (1): 意識的過程と無意識的過程 [講義・演習]			
第5回 人間の情報処理 (2): 自由意志 [講義・演習]			
第6回 情報端末の普及と影響 (1): グーグル効果 [講義・演習]			
第7回 情報端末の普及と影響 (2): 注意経済, FoMO [講義・演習]			
第8回 CMC の特徴 (1): インターネット・パラドクス [講義・演習]			
第9回 CMC の特徴 (2): SIDE モデル [講義・演習]			
第10回 情報倫理の歴史と展望 [講義・演習]			
第11回 情報産業の歴史と展望 [講義・演習]			
第12回 問題解決フレームワーク (1): PDCA サイクルの盲点と代替案 [講義・演習]			
第13回 問題解決フレームワーク (2): 自己の課題の定式化 [講義・演習]			
第14回 問題解決フレームワーク (3): 社会の課題の定式化 [講義・演習]			
第15回 まとめ (企画・提言) [講義・演習]			

テキスト
適宜，各回のテキスト・資料をLMSで配付する。
参考書・参考資料等
江上 隆夫（2019）． THE VISION 朝日新聞出版
学生に対する評価
各授業における事前課題や対面授業課題の到達度から総合的に評価する（100%）。 ・事前課題では，自身の理解度に応じた省察や自己課題化に向けた省察の状況进行评估する。 ・対面授業課題では，講義・演習内容に関する理解度や，学んだことを応用しようとする態度进行评估する。

- ・事前課題では，自身の理解度に応じた省察や自己課題化に向けた省察の状況进行评估する。
- ・対面授業課題では，講義・演習内容に関する理解度や，学んだことを応用しようとする態度进行评估する。

授業科目名： 情報科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森廣浩一郎，小川修史，掛川 淳一
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 情報科学， および情報理論の基礎			
【到達目標】 情報科学， および情報理論の基礎に関する知識の獲得			
授業の概要			
情報科学， および情報理論の基礎に関する知識獲得のための講義・演習を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション [講義]			
第2回：コンピュータと情報通信ネットワークの歴史 [講義]			
第3回：コンピュータの構成 [講義・演習]			
第4回：ハードウェアとソフトウェア [講義・演習]			
第5回：情報の表現と計算 [講義・演習]			
第6回：コンピュータと情報通信ネットワークの性能 [講義・演習]			
第7回：メディア [講義・演習]			
第8回：情報量とエントロピー [講義・演習]			
第9回：情報源符号化 [講義・演習]			
第10回：通信路符号化 [講義・演習]			
第11回：誤り訂正 [講義・演習]			
第12回：フーリエ変換 [講義・演習]			
第13回：音声のデジタル化と画像の圧縮 [講義・演習]			
第14回：暗号化 [講義・演習]			
第15回：まとめ [講義]			
定期試験は行わない。			
テキスト			
適宜， 資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
関連科目のテキスト・資料等			

学生に対する評価

【成績評価の方法】

受講・演習状況（評価割合：50%），および課題・レポート（評価割合：50%）で評価する。

【成績評価の観点】

「受講・演習状況」評価では，授業への参加度・貢献度，および学修した知識・技能の活用・応用力を評価の観点とする。

「課題・レポート」評価では，学修した知識の定着を評価の観点とする。

授業科目名： プログラミング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森廣浩一郎，小川修史，掛川 淳一
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 プログラミング言語とプログラミング			
【到達目標】 プログラミング言語に関する知識の獲得，およびプログラミングに関する知識・技能の獲得			
授業の概要			
プログラミング言語に関する知識獲得のための講義，およびプログラミングに関する知識・技能獲得のための講義・演習を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション [講義]			
第2回：プログラミング言語の歴史 [講義]			
第3回：基礎的なデータ型，変数，および基礎的な演算 [講義・演習]			
第4回：関数呼び出し [講義・演習]			
第5回：配列，コレクション [講義・演習]			
第6回：制御構造 [講義・演習]			
第7回：関数定義 [講義・演習]			
第8回：オブジェクト指向プログラミング [講義・演習]			
第9回：アルゴリズム [講義・演習]			
第10回：探索 [講義・演習]			
第11回：ソート [講義・演習]			
第12回：GUI [講義・演習]			
第13回：アプリケーション作成：設計 [講義・演習]			
第14回：アプリケーション作成：構築 [講義・演習]			
第15回：まとめ [講義・演習]			
定期試験は行わない。			
テキスト			
適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

関連科目のテキスト・資料等**学生に対する評価****【成績評価の方法】**

受講・演習状況（40%），および課題遂行状況（60%）で評価する。

【成績評価の観点】

「受講・演習状況」評価では，授業への参加度・貢献度を評価の観点とする。

「課題遂行状況」評価では，学修した知識・技能の活用・応用力を評価の観点とする。

授業科目名： AI・データサイエンス 応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 緒方思源 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマおよび到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 AI, データサイエンス, 情報教育での応用, Pythonプログラミング</p> <p>【到達目標】 情報教育に応用できるデータ分析とAIの方法を理解し, また, 基礎レベルのPythonプログラミングを用いて実践できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報教育に応用できるデータ分析とAIの方法, およびPythonの基本操作を説明する講義を行い, また, Pythonプログラミングを用いるデータ分析の演習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報教育に応用できるデータ解析とAI, およびPythonに関する紹介 [講義・演習] 第2回：Pythonの環境構築 [講義・演習] 第3回：データ型, 変数, list, tuple [講義・演習] 第4回：numpyでの配列 [講義・演習] 第5回：pandasでのデータフレーム [講義・演習] 第6回：探索的データ分析 (EDA) [講義・演習] 第7回：matplotlibを用いるデータ可視化 [講義・演習] 第8回：回帰分析 [講義・演習] 第9回：因子分析 (1) : アルゴリズム [講義・演習] 第10回：因子分析 (2) : データ解析 [講義・演習] 第11回：クラスタ分析 [講義・演習] 第12回：ニューラルネットワークによる画像処理 (1) : アルゴリズム [講義・演習] 第13回：ニューラルネットワークによる画像処理 (2) : データ解析 [講義・演習] 第14回：テキストマイニング (1) : アルゴリズム [講義・演習] 第15回：テキストマイニング (2) : データ解析 [講義・演習]</p> <p>定期試験は行わない</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>			

参考書・参考資料等

『スッキリわかるPython入門 第2版』（2023），国本大悟 & 須藤秋良（著） 株式会社フレアリンク（監修），インプレス.

『Python [完全] 入門』（2021），松浦健一郎 & 司ゆき（著），SBクリエイティブ.

学生に対する評価**【成績評価の方法】**

受講・演習状況（50%），および課題遂行状況（50%）で評価する.

【成績評価の観点】

「受講・演習状況」評価では，授業への参加度と授業中の演習課題の完成度を評価する.

「課題遂行状況」評価では，データ分析とAIに関するレポート課題の達成度を評価する.

授業科目名： データの分析と可視化	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤山郁夫
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 得られたデータの特徴をわかりやすく，かつ適切に表現するための作図や多変量解析の方法について，表計算ソフトやフリーの統計解析ソフトを用いた演習を通して学習する。			
【到達目標】 ・ 得られたデータの特徴をExcelやR等の統計分析ツールを用いて可視化し，他者にわかりやすく説明することができる。 ・ 多変量解析（重回帰分析，主成分分析，因子分析，クラスター分析など）の考え方を理解し，ExcelやR等の統計分析ツールを用いて実際に分析を実行し，結果の読み取りおよび考察を行うことができる。			
授業の概要			
得られたデータの特徴をわかりやすく，かつ適切に表現するための作図や多変量解析の方法について，ExcelやR等の統計分析ツールを用いた演習を通して学習する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス，Rの使い方【講義・演習】			
第2回 基本的な検定と作図(1): 相関係数の検定と散布図【講義・演習】			
第3回 基本的な検定と作図(2): 平均値の差の検定とヒゲ付き棒グラフ【講義・演習】			
第4回 分散分析(1): 1要因参加者間計画の分散分析と多重比較【講義・演習】			
第5回 分散分析(2): 1要因参加者内計画の分散分析【講義・演習】			
第6回 分散分析(3): 2要因参加者間計画の分散分析【講義・演習】			
第7回 分散分析(4): その他の計画の分散分析【講義・演習】			
第8回 前半の到達度の確認【講義・演習】			
第9回 重回帰分析(1): 基本的なモデル【講義・演習】			
第10回 重回帰分析(2): 交互作用項を含むモデル【講義・演習】			
第11回 主成分分析【講義・演習】			
第12回 因子分析【講義・演習】			
第13回 クラスター分析【講義・演習】			
第14回 ここまでの内容を用いたデータ分析演習【講義・演習】			

第 15 回 後半の到達度の確認 [講義・演習]

テキスト

適宜，各回のテキスト・資料をLMSで配付する。

参考書・参考資料等

江崎 貴裕 (2023) . 指標・特徴量の設計から始めるデータ可視化学入門 ソシム

山田 典一 (2023) . データ分析に必須の知識・考え方 認知バイアス入門 ソシム

山田 剛史・杉澤 武俊・村井 潤一郎 (2008) . Rによるやさしい統計学 オーム社

学生に対する評価

各授業における事前課題や対面授業課題の到達度から総合的に評価する (100%) 。

- ・事前課題では，自身の理解度に応じた省察や自己課題化に向けた省察の状況の評価する。
- ・対面授業課題では，講義・演習内容に関する理解度や，学んだことを応用しようとする態度を評価する。

授業科目名： 計測・制御システム	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 掛川淳一・小山英樹 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 計測・制御システムの仕組みと計測・制御システムのためのプログラミング 【到達目標】 計測・制御システムに関する知識・技能の獲得			
授業の概要 計測・制御システムの仕組みについての知識・技能を獲得するための講義・演習，および計測・制御システムのプログラミングのための知識・技能を獲得するための講義・演習を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション，対象プログラミング言語の文法，変数，演算，および制御構 [講義・演習]（掛川） 第2回：対象プログラミング言語におけるコンテナ・コレクション [講義・演習]（掛川） 第3回：対象プログラミング言語による基礎的プログラミング [演習]（掛川） 第4回：対象プログラミング言語におけるオブジェクト指向プログラミング [講義・演習]（掛川） 第5回：対象プログラミング言語におけるイベントハンドリングとGUIプログラミング [講義・演習]（掛川） 第6回：対象プログラミング言語における例外処理 [講義・演習]（掛川） 第7回：対象プログラミング言語による応用的プログラミング [演習]（掛川） 第8回：制御基板の構成 [演習]（小山） 第9回：制御基板の製作 [演習]（小山） 第10回：制御基板におけるデジタルデータの入出力法 [講義・演習]（小山） 第11回：制御基板におけるデジタルデータ出力のためのプログラミング [演習]（小山） 第12回：D/A変換の原理 [講義]（小山） 第13回：制御基板におけるD/A変換のプログラミング [演習]（小山） 第14回：A/D変換の原理 [講義]（小山） 第15回：制御基板におけるA/D変換のプログラミング [演習]（小山） 定期試験は行わない。			
テキスト 適宜，資料を配付する。			

参考書・参考資料等

関連科目のテキスト・資料等

学生に対する評価

受講・演習状況（評価割合：50%），および課題・レポート（評価割合：50%）で評価する。

【成績評価の観点】

「受講・演習状況」評価では，授業への参画度・貢献度，既習事項の活用度を評価の観点とする。

「課題・レポート」評価では，学修した知識の定着を評価の観点とする。

授業科目名： データベースシステム	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小川修史，緒方思源
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】</p> <p>データベースシステムの仕組みを概説するとともに、データベースシステムの設計や操作の演習を通して、運用と保守などの視点から社会の中でデータベースが果たす役割について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>講義を通してデータベースシステムについて体系的，系統的に理解し，SQLの演習を通してデータベースの設計・操作に関する関連技術について修得する．さらに，データベースシステムの利用，運用，構築，保守などに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			
授業の概要			
データベースシステムの基礎に関する知識獲得のための講義・演習を行う。			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション [講義]</p> <p>第2回：データベースと実世界の関わり(1)：データベースを支える情報技術 [講義]</p> <p>第3回：データベースと実世界の関わり(2)：データベースの目的と機能 [講義]</p> <p>第4回：データベースと実世界の関わり(3)：データベースのデータモデル [講義]</p> <p>第5回：データベースと実世界の関わり(4)：データベース管理システムの働き [講義]</p> <p>第6回：第2回～第5回の内容の振り返り [演習]</p> <p>第7回：データベースの操作(1)：SQLの基本構文，データ型 [講義・演習]</p> <p>第8回：データベースの操作(2)：SQLの基本操作（データの追加・削除） [講義・演習]</p> <p>第9回：データベースの操作(3)：SQLによるデータ操作（データの取得・結合） [講義・演習]</p> <p>第10回：データベースの操作(4)：SQLによる複雑なデータ操作（副問い合わせ） [講義・演習]</p> <p>第11回：データベースの設計(1)：データの分析とモデル化（E-Rモデル） [講義・演習]</p> <p>第12回：データベースの設計(2)：データベースの正規化 [講義・演習]</p> <p>第13回：データベースの保守・運用管理（組織管理・リスク管理・セキュリティ管理） [講義]</p> <p>第14回：自由テーマによるデータベース構築演習 [演習]</p> <p>第15回：まとめ [講義]</p> <p>定期試験は行わない。</p>			
テキスト			

なし。（適宜，資料を配付する。）

参考書・参考資料等

データベース関連のテキスト・資料等

学生に対する評価

【成績評価の方法】

受講・演習状況（評価割合：60%），および課題・レポート・プレゼンテーション（評価割合：40%）で評価する。

【成績評価の観点】

「受講・演習状況」については，授業への参加度，ディスカッションの際の貢献度，学修した知識・技能を活用する力を評価の観点とする。

「課題・レポート」評価では，学修した知識の定着度を評価の観点とする。

授業科目名： 情報通信ネットワーク	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森廣浩一郎，小川修史，掛川淳一
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 情報通信ネットワーク（LAN，インターネット，サービス，セキュリティ技術，情報モラル）			
【到達目標】 情報通信ネットワークに関する知識の獲得と利用のための技能の獲得			
授業の概要			
情報通信ネットワークに関する知識の獲得と利用技能の獲得のための講義・演習を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション [講義]			
第2回：プロトコル [講義・演習]			
第3回：イーサネット [講義・演習]			
第4回：ルーティング [講義・演習]			
第5回：インターネット [講義・演習]			
第6回：LANの構築 [演習]			
第7回：パケット通信 [講義・演習]			
第8回：サービス [講義・演習]			
第9回：名前解決 [講義・演習]			
第10回：Webサービス [講義・演習]			
第11回：Webサーバの構築 [演習]			
第12回：ファイアウォールとフィルタリング [講義・演習]			
第13回：暗号化通信と電子署名 [講義・演習]			
第14回：情報モラル [講義・演習]			
第15回：まとめ [講義]			
定期試験は行わない。			
テキスト			
適宜，資料を配付する。			
参考書・参考資料等			

関連科目のテキスト・資料等

学生に対する評価

受講・演習状況（40%），および実習・課題遂行状況（60%）で評価する。

【成績評価の観点】

「受講・演習状況」評価では，授業への参加度・貢献度を評価の観点とする。

「実習・課題遂行状況」評価では，学修した知識・技能の活用・応用力を評価の観点とする

授業科目名： ネットワークプログラミング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 掛川淳一・緒方思源
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 基礎的なネットワークプログラミングとWebプログラミング			
【到達目標】 ネットワークプログラミング， およびWeb技術に関する知識・技能の獲得			
授業の概要			
情報通信ネットワークに関する知識獲得のための講義・演習， およびネットワークプログラミング・Web技術に関する知識・技能獲得のための講義・演習を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション [講義]			
第2回：ソケット通信のためのプログラミング：クライアント [演習]			
第2回：ソケット通信のためのプログラミング：サーバ [演習]			
第4回：ソケット通信のためのプログラミング：マルチスレッドサーバ [講義・演習]			
第5回：Javaによる通信アプリケーション作成（1）：設計 [演習]			
第6回：Javaによる通信アプリケーション作成（2）：構築 [演習]			
第7回：Web技術（1）：HTMLとCSS [講義・演習]			
第8回：Web技術（2）：動的ページ [講義・演習]			
第9回：JavaScriptによる動的ページ作成（1）：設計 [演習]			
第10回：JavaScriptによる動的ページ作成（2）：構築 [演習]			
第11回：Web技術（3）：サーバサイドプログラミング [講義・演習]			
第12回：PHPによるサーバサイドプログラミング（1）：設計 [演習]			
第13回：PHPによるサーバサイドプログラミング（2）：構築 [演習]			
第14回：Webサイト構築 [講義・演習]			
第15回：まとめ [講義]			
定期試験は行わない。			
テキスト			
適宜，資料を配付する。			
参考書・参考資料等			

関連科目のテキスト・資料等**学生に対する評価****【成績評価の方法】**

受講・演習状況（40%），および課題遂行状況（60%）で評価する。

【成績評価の観点】

「受講・演習状況」評価では，授業への参加度・貢献度を評価の観点とする。

「課題遂行状況」評価では，学修した知識・技能の活用・応用力を評価の観点とする。

授業科目名： マルチメディア表現・ 技術	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤山郁夫，緒方思源 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 マルチメディアを利用する人間の特性を踏まえ、目的に応じて情報を効果的に呈示する技術について学ぶ。			
【到達目標】 マルチメディアを構成する基礎的技術や、マルチメディアを利用する人間の特性について、他者にわかりやすく説明することができる。また、これらを踏まえ、各自の問題意識や目的に応じて、情報をより効果的に呈示する方法について企画したり、実際にそのプロトタイプを制作したりすることができる。			
授業の概要			
マルチメディアを構成する基礎的技術や、マルチメディアを利用する人間の特性について確認した上で、各自の問題意識や目的に応じて、情報をより効果的に呈示する方法について企画したり、実際にそのプロトタイプを制作したりする演習を行う。			
授業計画			
第1回 ガイダンス，マルチメディアとは（澤山・緒方）【講義】			
第2回 マルチメディアを構成する基礎的技術(1)：テキスト・画像（澤山）【講義・演習】			
第3回 マルチメディアを構成する基礎的技術(2)：音声・映像（澤山）【講義・演習】			
第4回 マルチメディアの歴史（澤山）【講義】			
第5回 マルチメディアと人間の特性（澤山）【講義・演習】			
第6回 マルチメディアを用いた訴求表現(1)：広告心理学（澤山）【講義・演習】			
第7回 マルチメディアを用いた訴求表現(2)：事例の収集・検討（澤山）【講義・演習】			
第8回 マルチメディアを用いた訴求表現(3)：企画（澤山）【講義・演習】			
第9回：情報デザイン(1)：情報デザインとは何か，及びデザインの歴史（緒方）【講義】			
第10回：情報デザイン(2)：コンテンツ設計の方法（緒方）【講義・演習】			
第11回：情報デザイン(3)：視覚要素を用いてコンテンツを表現する方法（緒方）【講義・演習】			
第12回：情報デザイン(4)：情報デザインの製品開発のフロー（緒方）【講義・演習】			
第13回：情報デザイン(5)：情報デザインでのデータ科学と認知科学（緒方）【講義・演習】			
第14回：人間工学，感性工学，ユニバーサルデザイン（緒方）【講義】			

第15回：生成AI時代におけるマルチメディア：AI絵画やAI動画などの進展（緒方） [講義・演習]

テキスト

適宜，各回のテキスト・資料をLMSで配付する。

参考書・参考資料等

入門マルチメディア [第二版] 編集委員会 (2023) . 入門マルチメディア 第2版 CG-ARTS 協会

学生に対する評価

各授業における事前課題や対面授業課題の到達度から総合的に評価する（100%）。

- ・事前課題では，自身の理解度に応じた省察や自己課題化に向けた省察の状況进行评估する。
- ・対面授業課題では，講義・演習内容に関する理解度や，学んだことを応用しようとする態度进行评估する。

授業科目名： 情報科授業研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森廣浩一郎，森山潤，掛川淳一，小川修史，澤山郁夫，緒方思源，小山英樹
			担当形態：クラス分け・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【テーマ】 情報科における実践課題の中からテーマを設定し，教材研究を通して実践的・体験的に理解を深めるとともに，教材作成能力，実践的指導力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科における実践課題について理解を深め、自らの問題意識に基づき適切に教材研究ができる。 ・テーマに適した方法で、主体的・計画的に資料の収集，整理・分析，考察し，教材開発，発表・討議ができる。 ・教材研究の結果を踏まえた適切な指導案作成や模擬授業の実践ができる。 			
授業の概要			
<p>情報科における教育現場での今日的な実践課題を把握するとともに，授業研究，実践研究の手法，文献収集の方法等を学び，受講生各自の設定したテーマに沿ったグループ別探究活動を行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション，グループ分け（担当教員全員）</p> <p>第2回：テーマ設定（各担当教員）</p> <p>第3回：先行実践の収集（各担当教員）</p> <p>第4回：先行実践の整理（各担当教員）</p> <p>第5回：先行実践の分析・考察（各担当教員）</p> <p>第6回：実践課題の検討（各担当教員）</p> <p>第7回：教材研究1(教材・教具開発の方針)（各担当教員）</p> <p>第8回：教材研究2(教材・教具開発に向けた予備実験・実習)（各担当教員）</p> <p>第9回：教材研究3(教材・教具の製作・制作)（各担当教員）</p> <p>第10回：教材研究4(ワークシート作成)（各担当教員）</p> <p>第11回：教材研究5(デジタル教材等の作成)（各担当教員）</p> <p>第12回：教材研究6(学習指導案の作成)（各担当教員）</p>			

第13回：模擬授業の実施1（担当教員全員）

第14回：模擬授業の実施2（担当教員全員）

第15回：総括と振り返り 定期試験は実施しない（担当教員全員）

テキスト

高等学校情報科検定教科書

高等学校学習指導要領解説（情報編）

参考書・参考資料等

関連資料を適宜、配布する。

学生に対する評価

先行実践の調査(20%)，教材研究の取組み（50%）模擬授業の取組み（30%）から総合的に評価する。

- ・先行実践の調査では，調査結果に関するプレゼンテーションの適切性を評価の観点とする。
- ・教材研究の取組みでは，試作した教材・教具の有効性を評価の観点とする。
- ・模擬授業の取組みでは，作成した指導案，模擬授業の完成度を評価の観点とする。

授業科目名： 情報科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森山 潤
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>■ 目的</p> <p>体系的な情報教育の考え方に基づいて、高校共通教科「情報」の目標、内容、位置付けを理解し、具体的な教材の研究を通して、実践事例を知り、授業デザインの力を身に付ける。</p> <p>■ 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国における教育情報化、情報教育の体系から高校共通教科「情報」の位置づけと役割を理解することができる。 ・高校共通教科情報科の各学習内容、学習指導の考え方、実践事例を理解することができる。 			
授業の概要			
<p>前半は、高校情報科の理念、位置付け、目標、内容を学習指導要領に即して理解する。中盤は、高校情報科の実践事例を知るとともに、各学習内容について基礎的な教材研究を行う。最後は、学習指導案を作成し、マイクロティーチングを行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：講義ガイダンス、情報の概念</p> <p>第2回：情報と生活、社会、産業との関わり</p> <p>第3回：Society5.0と教育改革</p> <p>第4回：教育情報化の全体像と高等学校情報科の位置付け</p> <p>第5回：共通教科「情報」の目標と内容構成</p> <p>第6回：専門教科「情報」の目標と内容構成</p> <p>第7回：演習1:情報社会の問題解決と情報デザインの学習指導と実践事例</p> <p>第8回：演習2:情報モラル・セキュリティの学習指導と実践事例</p> <p>第9回：演習3:プログラミングの学習指導と実践事例</p> <p>第10回：演習4:情報通信ネットワークの学習指導と実践事例</p> <p>第11回：演習5:統計・データサイエンスの学習指導と実践事例</p> <p>第12回：高等学校情報科における学習指導案の書き方と学習評価</p> <p>第13回：高等学校情報科におけるICTと学習支援システムの活用</p> <p>第14回：演習6:マイクロティーチング</p> <p>第15回：全体のまとめと今後の課題</p>			

定期試験は実施しない
テキスト 資料を適宜, 配布する。
参考書・参考資料等 文部科学省:高等学校学習指導要領 文部科学省:高等学校情報科に関する特設ページ内のコンテンツ 高等学校共通教科情報科教科書(各社)
学生に対する評価 各演習課題の達成度 (70%) マイクロティーチングの達成度 (30%)

授業科目名： 情報科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森山 潤
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>■ 目的</p> <p>体系的な情報教育の考え方に基づいて、高校共通教科「情報」の各内容に即した発展的な教材研究を展開し、実践的な授業デザインの力を身に付ける。</p> <p>■ 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国における教育情報化、情報教育の体系から高校共通教科「情報」の目標、内容、位置づけを理解するとともに、STEAM教育など新しい教育の考え方との関連性を考察することができる。 ・高校共通教科情報科の各学習内容について学習指導の考え方、実践事例を理解し、発展的な教材研究(単位時間の授業デザインに加えて、PBL的な題材設定)を行うことができる。 			
授業の概要			
<p>前半は、高校情報科の位置付けを、我が国における教育情報化及び情報教育の史的展開から考察するとともに、今後期待されるSTEAM教育に果たす役割を理解する。中盤は、高校共通教科情報科の各学習内容について、発展的な教材研究を行う。最後は、学習指導案を作成し、マイクロティーチングを行う。</p>			
授業計画			
第1回：講義ガイダンス、(復習)高等学校情報科の目標と内容			
第2回：我が国における教育情報化及び情報教育の史的展開			
第3回：高等学校におけるSTEAM教育と情報科との関わり			
第4回：高校情報科における授業デザインとプロジェクト基盤学習			
第5回：演習1:情報社会の問題解決と情報デザインの教材研究と題材設定			
第6回：情報モラル・セキュリティの授業デザイン			
第7回：演習2: 情報モラル・セキュリティの教材研究と題材設定			
第8回：情報通信ネットワークの授業デザイン			
第9回：演習3:ネットワークプログラミングの教材研究と題材設定			
第10回：データサイエンス・AIの授業デザイン			
第11回：演習4:データサイエンスの教材研究と題材設定			

第12回：演習5:機械学習の教材研究と題材設定

第13回：高等学校情報科におけるアクティブラーニングと学習評価

第14回：演習6:マイクロティーチング

第15回：全体のまとめと今後の課題

定期試験は実施しない

テキスト

資料を適宜、配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省:高等学校学習指導要領

文部科学省:高等学校情報科に関する特設ページ内のコンテンツ

高等学校共通教科情報科教科書(各社)

学生に対する評価

各演習課題の達成度 (70%) マイクロティーチングの達成度 (30%)

授業科目名：子どもの安全と学校組織	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：川上泰彦，神内聡，三浦智子
			担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 指定大学が加える科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校安全に関する全体像を把握・理解し、学校内での安全管理（リスクの察知と対処・回避、事故発生時等の対応）について、具体的なイメージを持つことができる。</p> <p>学校安全の観点から、学校の組織と活動・施設の管理について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校安全」について、学校種ごとの留意点の違いを知る 就学前（幼稚園）、小学校、中学校、特別支援学校では、児童・生徒の発達段階の違いや教育内容の違いに対応して「学校安全」の捉え方が違うということを、関係者による講話を通じて学習する（学校観察実習を通じて確認する）。 ・ ケース教材を用いた「演習と講義」の組み合わせによる「学校安全」理解 学校において直面しうる「学校安全」のリスク事象（学校における生活安全、教育活動中の事故への対応、登下校における交通安全、食物アレルギーへの対応）について、それぞれケース教材を用いた演習とその振り返り・解説を実施し、「学校安全」に対する組織的な取り組みについて、当事者意識を持った学習をする。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：学校生活における「リスク」とは</p> <p>第2回：幼児教育・保育における「安全」（附属幼稚園教員による講話）</p> <p>第3回：小学校・中学校における「安全」（附属小・中学校教員による講話）</p> <p>第4回：特別支援学校における「安全」（特別支援学校教員による講話）</p> <p>第5回：学校観察実習をふまえた校種別「安全」の振り返り</p> <p>第6回：学校における生活安全①（ケース教材の演習）</p> <p>第7回：学校における生活安全②（予防策の検討と講義）</p> <p>第8回：教育活動中における事故への対応①（ケース教材の演習）</p> <p>第9回：教育活動中における事故への対応②（予防策の検討と講義）</p> <p>第10回：学校生活・教育活動における安全体制（第6～10回の振り返りとディスカッション）</p> <p>第11回：登下校における交通安全①（ケース教材の演習）</p> <p>第12回：登下校における交通安全②（予防策の検討と講義）</p> <p>第13回：食物アレルギーへの対応①（ケース教材の演習）</p> <p>第14回：食物アレルギーへの対応②（予防策の検討と講義）</p>			

第15回：子どもの安全における地域・家庭連携（第11～14回の振り返りとディスカッション） 定期試験
テキスト 特に指定しない
参考書・参考資料等 文部科学省「『学校事故対応に関する指針』に基づく詳細調査報告書の横断整理」 文部科学省「第3次学校安全の推進に関する計画」など
学生に対する評価 学校安全に関する基礎的な知識の習得状況 ケース教材に関する演習の成果物・レポート 演習の振り返りと講義に関する学習成果レポート

授業科目名： 教師の連携・協働と学 校経営	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川上泰彦，山中一英，神内聡 ，三浦智子 担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
授業のテーマ及び到達目標 学級における子どもの「支援」のバリエーションを理解する。 子どもの支援における学校内外の連携パターンについて知る。 学級・子どもの状況を分析し、学校内外の誰とどのような連携・協働のもとで支援を行うことができるか、方針を構想することができる。			
授業の概要 学校内における教師間の連携・協働や、教師と他の専門職（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど）との連携・協働、さらには学校・教師と外部機関（児童相談所等）との連携・協働などが必要となる場面を取り上げたケース教材について、グループワークによるケースの検討（1回）と、回答の共有と解説（1回）を組み合わせて実施する。これにより、教室内におけるさまざまな事象についての捉えを幅広いものとし、多様な連携・協働の方法と、連携・協働における留意点について理解する。			
授業計画 第1回：イントロダクション・いじめの予防及び対応①（ケース教材の演習） 第2回：いじめの予防及び対応②（演習の振り返りと講義） 第3回：授業妨害・問題行動への対応①（ケース教材の演習） 第4回：授業妨害・問題行動への対応②（演習の振り返りと講義） 第5回：安全・安心な教室・学習環境を保障する連携・協働（第1～4回の振り返りとディスカッション） 第6回：不登校・保健室登校への対応①（ケース教材の演習） 第7回：不登校・保健室登校への対応②（演習の振り返りと講義） 第8回：授業・学級経営における個別の支援①（ケース教材の演習） 第9回：授業・学級経営における個別の支援②（演習の振り返りと講義） 第10回：個々の児童・生徒を大切にする連携・協働（第6～9回の振り返りとディスカッション） 第11回：児童虐待（の疑いのある事例）への対応①（ケース教材の演習） 第12回：児童虐待（の疑いのある事例）への対応②（演習の振り返りと講義） 第13回：保護者対応①（ケース教材の演習） 第14回：保護者対応②（演習の振り返りと講義）			

第15回：児童・生徒の家庭環境を視野に入れた連携・協働（第11～14回の振り返りとディスカッション）
定期試験
テキスト 特に指定しない
参考書・参考資料等 水野治久『子どもを支える「チーム学校」ケースブック』
学生に対する評価 学級・学校の諸問題に対応する上での校内組織等に関する基礎的な知識 ケース教材に関する演習の成果物・レポート 演習の振り返りと講義に関する学習成果レポート

授業科目名： 多機関連携と学校防災	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱野清，川上泰彦，神内聡， 三浦智子
			担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学部1年次必修科目「子どもの安全と学校組織」を前提に，そこで既習の学校安全の3領域のうち，「災害安全」に焦点を当てた学びを通して，学校における災害（学校防災）のリスクを幅広く想定することができる。</p> <p>学校防災にかかる行政組織，民間組織等との連携について，連携先との効果的な取組が想定できる。</p> <p>学校防災にかかる実践について，学校内外におけるコミュニケーションの特性を理解し，安全管理，安全教育，組織活動を適切に結び付けた「学校安全（防災）計画」の策定，見直しを通して，実践的な対処法を想定することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「災害」について幅広く理解する。 <p>学校防災を考える前提として，「災害」を自然的要因，社会的要因の両側面から理解する。あわせて，防災や災害発生後の対応において発生する事象に際しては，心理的側面や法的側面においても検討を要する点が発生することを，幅広く理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多機関連携による「防災」を理解する。 <p>学校防災に関連する諸制度とその実際について学習し，災害発生に備える側面においても，また災害発生後の対応においても，学校の立地する地域の諸機関・諸団体との連携が重要であることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な学校防災を構想する。 <p>防災・減災の研究や，災害発生時の葛藤やコミュニケーションについて学習するとともに，実際に防災教育を行っている自治体等の例に学び，児童・生徒さらには保護者・地域住民をも視野に，災害安全をいかに啓発するかプログラム（学校安全（防災）計画）を構想し，授業全体の学習内容の振り返りと総合化を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション①「防災教育はなぜ必要か，何が重要か」</p> <p>第2回：オリエンテーション②「多機関連携に何を期待するのか，校内連携に何を求めるのか」</p> <p>第3回：学校を取り巻く災害実態①「学校で想定すべき災害とは」</p> <p>第4回：学校を取り巻く災害実態②「災害発生時，学校にはどのような役割が求められたか」</p>			

第5回：学校における防災実践「今、学校現場ではどのような防災教育が行われているのか」
 第6回：学校防災のための行政支援「行政は学校防災にどのような役割を果たしているのか、学校は行政支援に何を求めるのか」
 第7回：学校防災のための民間支援「民間団体は学校防災にどのような役割を果たしているか、学校は民間支援に何を期待できるか」
 第8回：小括；グループワーク「わたしにとっての防災教育の在るべき姿とは」
 第9回：防災教育先進校に学ぶ「今、防災教育先進校ではどのような取組が行われているのか」
 第10回：災害発生前の学校の役割「災害の発生前、何に備えるべきか」
 第11回：災害発生時の学校の役割「災害の発生時、何を行うべきか」
 第12回：災害発生後の学校の役割「災害発生後、何が求められるか」
 第13回：グループワーク「改訂版『附属学校防災教育の手引き』を提案しよう①」
 第14回：グループワーク「改訂版『附属学校防災教育の手引き』を提案しよう②」
 第15回：プレゼンテーションとまとめ「防災教育はなぜ必要か、何が重要か」
 定期試験は実施しない。

テキスト

基本的にテキストは使用しない。ただし、上記各回に以下に例示した教材等を適宜使用する。

※使用教材：

- ・文部科学省「教職員のための学校安全e-ラーニング」
<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/learning/index.html>
- ・国立研究開発法人防災科学技術研究所「そのときに備えて 地震 台風・大雨 大雪 火山噴火」30p

<https://www.bosai.go.jp/study/publish/book/sonotoki/book.pdf>

- ・内閣府防災担当「地区防災計画フォーラム2023」（190分）

<https://www.youtube.com/watch?v=F88Z5gOCTSE>

参考書・参考資料等

参考図書については、各授業において随時提示する。

学生に対する評価

「中間まとめ（小括：第8回）」としての災害理解（レポート [40%] ），「最終まとめ（第15回）」としての防災プログラムの構想（レポート [60%] ）を成績評価の対象とする。

授業科目名： インクルーシブ教育 基礎論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡村章司，小川修史，石井 智也，石倉健二，石橋由紀 子，竹口智之，中島武史， 前芝武史 担当形態：複数・オムニバ ス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：インクルージョン、インクルーシブ教育のあり方について考えます。具体的には、当事者や関係者、教科教育の専門家等の話や対話を通して、ソーシャル・インクルージョン、インクルーシブ教育の理念、発達障害等の多様な児童生徒の指導・支援、インクルーシブ教育と教科教育等との関連、関係者との協働に関する理解を深めます。本授業を通して、児童生徒の多様性を認めうる素養を高めることが期待されます。</p> <p>到達目標：インクルージョン、インクルーシブ教育の理念および児童生徒の多様性を理解する</p>			
<p>授業の概要</p> <p>インクルーシブ教育の理念や児童生徒等の多様性の理解を促すために、多様な関係者と学生との対話を通して授業を実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>岡村・小川はすべての回の授業に参加する。</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：ソーシャルインクルージョンとインクルーシブ教育（石橋・石井）</p> <p>第3回：無意識的な偏見や差別を自覚する（株式会社LITALICO）</p> <p>第4回：社会的マイノリティの立場から考える（1）：障害</p> <p>第5回：社会的マイノリティの立場から考える（2）：性的マイノリティ</p> <p>第6回：社会的マイノリティの立場から考える（2）：多文化共生（中島）</p> <p>第7回：インクルーシブ・デザインについて考える（1）：合理的配慮とユニバーサル・デザイン</p> <p>第8回：インクルーシブ・デザインについて考える（2）：QOLの向上（石倉）</p> <p>第9回：インクルーシブ教育を教師の視点から考える（1）：教科教育との関連（前芝）</p> <p>第10回：インクルーシブ教育を教師の視点から考える（2）：生徒指導との関連</p> <p>第11回：インクルーシブ教育を教師の視点から考える（3）：外国人児童生徒への支援との関連（竹口）</p>			

第12回：関係者との連携を考える（1）：保護者

第13回：関係者との連携を考える（2）：関係機関

第14回：関係者との連携を考える（3）：民間企業（株式会社LITALICO、株式会社錦城護謨）

第15回：インクルージョンに関する意義を整理する：無意識的な偏見や差別を自覚する
最終レポート

テキスト

講義時に必要に応じて資料を配付し、文献を紹介する。

参考書・参考資料等

インクルーシブ教育に関連した文部科学省の通知や報告書等の資料。例えば、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）概要」（平成24年7月23日）

学生に対する評価

- ・各回のレポート課題（50%）、最終レポート課題（50%）により成績評価を行う。
- ・最終レポート課題では、自らのインクルージョンに対する捉えや自身の偏見や差別観に関する思考力や表現力を評価の観点とする。

授業科目名： インクルーシブ教育 実践論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡村章司，小川修史，井澤 信三，宇野宏幸，中島武史 ，前芝武史 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>授業のテーマ：インクルーシブ教育を実践する素養を高めます。具体的には、特別な教育的ニーズのある児童生徒を含めた、一人ひとりの学びを充実させるための学校づくり、授業づくりや学級経営、個別の指導計画や個別の教育支援計画、学校組織としてインクルーシブ教育を推進していくための方法である支援会議を取り上げます。</p> <p>到達目標：インクルーシブ教育の視点を踏まえた学級づくりを理解する。 授業案や指導計画を作成するポイントを理解する。 支援関係者間のコミュニケーションのあり方を理解する。</p>			
授業の概要			
本授業では、ワークショップなどの演習を通して、学校場面の事例をもとに、授業案や指導計画等の作成に取り組んでいき、インクルーシブ教育を実践する素養を高めます。			
授業計画			
岡村・小川はすべての回の授業に参加する。			
第1回：インクルージョンの視点からの学校づくりとは			
第2回：特別な教育的ニーズのある児童生徒等を含めた学級経営のあり方（井澤）			
第3回：理想の学級をつくってみよう1：学級経営について考える			
第4回：教科等の諸領域との関連性を踏まえたインクルーシブな授業のあり方（宇野）			
第5回：理想の学級をつくってみよう2：授業について考える			
第6回：理想の学級や授業を共有しよう			
第7回：学級経営や授業づくり、学校づくりの実際（宇野）			
第8回：多様な児童生徒からなる学校・学級とは—第1～7回のふり返り—（前芝）			
第9回：個別の指導計画・個別の教育支援計画の概要（指導計画作成演習）			
第10回：個別の指導計画に基づく指導の実際			
第11回：アシスティブ・テクノロジーを用いた個別の支援			
第12回：支援会議の概要（保護者も含む）			
第13回：模擬支援会議をしよう（中島）			
第14回：模擬支援会議の振り返り			

第15回：インクルーシブ教育を展開するために

最終レポート

テキスト

講義時に必要に応じて資料を配付し、文献を紹介する。

参考書・参考資料等

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～

学生に対する評価

- ・各回のレポート課題や演習でのアウトプット（70%）、最終レポート課題（30%）により成績評価を行う。
- ・最終レポート課題では、インクルーシブ教育を展開するための具体的な方略に関する記述内容の妥当性や論理性を評価の観点とする。

授業科目名： 学習科学と授業のリデザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山中一英、宇野 宏幸、石野秀明、山内敏男、 宮田（蛸名）佳緒里、松田充 担当形態：クラス分け・複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
授業のテーマ及び到達目標			
人が潜在的に持っている学びの力を引き出す環境をデザインするという学習科学の視点に立ち、他者と考えながら学ぶ授業づくり、そこでの教員の役割や評価等について学ぶ。			
授業の概要			
<p>主な内容・テーマは次のとおり。</p> <p>①学習観の転換とその核心としての学習者観の転換（人はいかに学ぶか、社会構成主義を背景にした学習の再定義等）</p> <p>②新しい学習観・学習者観に基づく学習環境のデザイン（他者と考えながら学ぶ授業づくり、ファシリテーターとして果たすべき教員の役割、転換された学習観・学習者観に依拠した新しい評価のかたち等）</p> <p>20名程度のグループを編成し、そこに大学教員と大学院生がかかわる。すなわち、受講者、大学教員、大学院生による「学びのトライアングル」を構成して、授業を展開していく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回～第9回：受講者は学習観・学習者観の転換に関する教育学や心理学等の学術理論や研究の知見について、反転授業方式を原則に学んでいく。オンデマンド教材の視聴を前提に、グループごとに質問を出し合ったり率直に意見交換したりしながら、理解を深めていく。</p> <p>第10回、第11回：教員一人ひとりの学習観・学習者観の転換にかかる経験が日常の実践とともに事例として収集・整理された汎用的学習材「事例集」を活用した学びを行う。ここで想定されているのは、次のような学びのプロセスである。グループにおいて他者と対話するなかで、事例に纏わる他者の経験を「聴く」、事例に纏わる自らの経験を「語る」「掘り下げる」、自らの経験を他者の経験と「比べる」、学術理論等と「突き合わせる」。そして、自らが自明的に前提していた観に「気づく」。</p> <p>第12回～第15回：「学びの成果発表会」を行う。その準備に2回、発表会に2回をあてる。発表はすべてのグループが行う。グループごとにテーマを設定するよう求める。テーマの例として、「なぜ学習観の転換が難しいのか」「転換された学習観のもとで新しい評価を実施するとしたら、具体的にどのような方法がありうるか」等。</p>			
テキスト			

使用しない。

参考書・参考資料等

授業において、随時、資料を配布する。

学生に対する評価

〔方法〕

グループワークや発表会における参加度・貢献度（40%）、授業中に提出を求めるワークシートの内容（30%）、全授業終了後に提出を求めるレポートの内容（30%）によって総合的に評価する。

〔観点〕

「グループワークや発表会における参加度・貢献度」に関する観点

主張の明確さ、内容のオリジナリティ、討論の活性化や他者の思考促進への貢献等

「ワークシートの内容」に関する観点

内容の理解度、思考の多面性、構成の論理性

「レポートの内容」に関する観点

授業で習得した知識の集約・整理、授業で扱った事柄に関わる自らの行動や思考についての考察

授業科目名： ラーニング・ファシリ テーションの理論と実 践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：山中一英、宇野 宏幸、石野秀明、山内敏男、 宮田（蛸名）佳緒里、松田充 担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
授業のテーマ及び到達目標 転換された学習観のもとでの学習者中心の授業で求められるファシリテーターとしての教員の役割やファシリテーションに関する理論を学び、グループワークやワークショップの実践等を通して、ラーニング・ファシリテーションについての理解を深めていく。			
授業の概要 主な内容は次のとおり。 ①転換された学習観のもとで求められるファシリテーターとしての教員の役割 ②ファシリテーションの理論とその展望 ③グループワークやワークショップの学校教育における展開可能性 受講者全体を対象に展開する活動とグループ単位で取り組む活動を組み合わせて実施する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回～第4回：「ファシリテーターとしての教員の役割」「ファシリテーションの理論とその展望」「ファシリテーションの技法」等について解説する。 第5回：「学習科学と授業のリデザイン」でファシリテーターを務めた大学教員と大学院生が、その経験から、ファシリテーションの実践上の課題等を析出するワークショップを行う。受講者はそのワークショップを参観するとともに、グループでそれについての意見交換を行い、ワークショップの実践上の課題等について理解を深める。 第6回、第7回：模擬ファシリテーションを行う。受講者（の一部）がファシリテーター役、参加者役となって、実際にファシリテーションを体験する。課題は大学生活の中から設定する。レコーディングしておいた動画を視聴しながら、大学教員と大学院生からよかった点や改善点等についてのコメントを受ける。 第8回：受講者、大学教員、大学院生によるシンポジウムを行う。テーマの一例として、「ワークショップやファシリテーションの学校教育における展開可能性と課題」等。			
テキスト 使用しない。			
参考書・参考資料等			

授業において、随時、資料を配布する。

学生に対する評価

グループワーク等における参加度・貢献度（40%）、授業中に提出を求めるワークシートの内容（30%）、全授業終了後に提出を求めるレポートの内容（30%）によって総合的に評価する。

〔観点〕

「グループワーク等における参加度・貢献度」に関する観点

主張の明確さ、内容のオリジナリティ、討論の活性化や他者の思考促進への貢献等

「ワークシートの内容」に関する観点

内容の理解度、思考の多面性、構成の論理性

「レポートの内容」に関する観点

授業で習得した知識の集約・整理、授業で扱った事柄に関わる自らの行動や思考についての考察

授業科目名： STEAM教育概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森山 潤、永田智子 担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 指定大学が加える科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>■ 授業のテーマ</p> <p>授業のテーマはSTEAM (Science, Technology, Engineering, Arts and Humanities, Mathematics) 教育である。STEAM教育とは、教科横断・文理融合の考え方にに基づき、実社会の課題を解決しようとする主体的で創造的な学びである。本授業では、その考え方について講義・演習を行う。</p> <p>■ 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ STEAM教育の目的、背景、意義、並びに展開方略を理解する。 ・ 「総合的な学習の時間」を想定したSTEAM教育の単元プランを構想することができる。 			
授業の概要			
<p>本授業では、前半に、STEAM教育の目的、背景、意義、展開方略について実践事例を交えて学習する。その上で、後半は、「総合的な学習の時間」での実践を想定したSTEAM教育の単元プランを構想する演習に取り組み、その構成の在り方について考察する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：STEAM教育の目的、背景、意義</p> <p>第2回：STEAM教育の展開方略（デザイン思考とPjBL）</p> <p>第3回：STEAM教育における教科横断的な学び</p> <p>第4回：STEAM教育の実践事例</p> <p>第5回：STEAM教育を支えるシーズ学習</p> <p>第6回：STEAM単元の構想（演習）</p> <p>第7回：STEAM単元プランの発表・共有・考察（演習）</p> <p>第8回：まとめ / 後期「STEAM教育演習」に向けて</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
授業の中で適宜資料を配付する			
学生に対する評価			

【成績評価の方法】

各回レポート（評価割合：60%）、単元プラン（評価割合：40%）に授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する。

【成績評価の観点】

- ・レポートでは、STEAM教育の目的、背景、意義が理解されているかを評価の観点とする。
- ・単元プランでは、STEAM教育の展開方略を踏まえて構想されているかを評価の観点とする。

授業科目名：STEAM 教育演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永田智子・森山潤
			担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】 授業のテーマはSTEAM (Science, Technology, Engineering, Arts and Humanities, Mathematics) 教育である。STEAM教育とは、教科横断・文理融合の考え方に基 づき、実社会の課題を解決しようとする主体的で創造的な学びである。本授業では、その考え 方に基づいて演習を行う。</p> <p>【到達目標】 探究し知る学びと発想し創る学びのプロセスを通し、学習者としてSTEAM教育 のポイントを体感するとともに、学修の成果をプロトタイプとしてアウトプットする。さらに STEAM教育のデザインや指導者の在り方について評価する視点を獲得する。</p> <p>【授業の概要】 前半は、受講生が学習者の立場に立って問題発見・解決するプロジェクト駆動 型のSTEAM探究に取り組む演習を行う。後半は、前半のSTEAM探究経験を省察し、STEAM 教育のデザインや指導者の在り方について考察する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、探究し知る学び1（課題設定）</p> <p>第2回：探究し知る学び2（情報収集）</p> <p>第3回：探究し知る学び3（整理・分析）</p> <p>第4回：探究し知る学び4（まとめ）</p> <p>第5回：探究し知る学び5（表現）プレゼンテーション</p> <p>第6回：発想し創る学び1（共感）</p> <p>第7回：発想し創る学び2（問題定義）</p> <p>第8回：発想し創る学び3（発想1）</p> <p>第9回：発想し創る学び4（発想2）</p> <p>第10回：発想し創る学び5（プロトタイピング1）</p> <p>第11回：発想し創る学び6（プロトタイピング2）</p> <p>第12回：発想し創る学び7（テスト）プレゼンテーション</p> <p>第13回：STEAM学習についての省察</p> <p>第14回：STEAM教育の在り方の考察</p> <p>第15回：学びの統合：今後のSTEAM教育を展望</p>			
テキスト			
なし			

参考書・参考資料等

授業の中で適宜資料を配付する

学生に対する評価

【成績評価の方法】

プレゼンテーション（評価割合：60%）、レポート（評価割合：40%）に授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する。

【成績評価の観点】

- ・プレゼンテーションでは、探究や創造の成果が表現されているかを評価の観点とする。
- ・レポートではSTEAM教育を指導することに関して考察されているかを評価の観点とする。

授業科目名： デジタル学習環境と 情報活用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森廣浩一郎，永田智子，小川 修史，澤山郁夫 担当形態：クラス分け・オム ニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 児童一人一台端末及びクラウドが導入された学習環境における情報活用型の授業展開を理解する。</p> <p>【到達目標】 代表的なデジタル学習環境の活用方法を体験することで、実践的指導力を高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>内容① Windows OS端末とMicrosoft 365 Education，内容② Chrome OS端末とGoogle Workspace for Education，内容③iPadOS端末，内容④ロイロノートなど，代表的なデジタル学習環境を取り上げ，その機能や特徴などについて講義するとともに，情報活用型授業の実践に向けた具体的な活用方法について演習を行う。なお，内容①～④は，4クラスに分けてローテーションで実施する(ここでは便宜的に第1～8回の順番で示している)。また，いずれのクラスにおいても各内容の初回導入時には，ガイダンスを実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：内容① Windows OS端末とMicrosoft 365 Educationのデジタル学習環境を用いた授業展開の理解(森広) [講義・演習]</p> <p>第2回：内容① Windows OS端末とMicrosoft 365 Educationのデジタル学習環境の活用方法(森広) [講義・演習]</p> <p>第3回：内容② Chrome OS端末とGoogle Workspace for Educationのデジタル学習環境を用いた授業展開の理解(澤山) [講義・演習]</p> <p>第4回：内容② Chrome OS端末とGoogle Workspace for Educationのデジタル学習環境の活用方法(澤山) [講義・演習]</p> <p>第5回：内容③ iPadOS端末のデジタル学習環境を用いた授業展開の理解(小川) [講義・演習]</p> <p>第6回：内容③ iPadOS端末のデジタル学習環境の活用方法(小川) [講義・演習]</p> <p>第7回：内容④ ロイロノートのデジタル学習環境を用いた授業展開の理解(永田) [講義・演習]</p> <p>第8回：内容④ ロイロノートのデジタル学習環境の活用方法(永田) [講義・演習]</p> <p>定期試験は行わない。</p>			

テキスト

なし。（適宜，資料を配付する。）

参考書・参考資料等

ソフトウェア・ハードウェア関連のテキスト・資料等

学生に対する評価

内容（①～④）ごとの受講・演習状況（評価割合：15%×4=60%），および課題（評価割合：10%×4=40%）で評価する。

【評価の観点】

「受講・演習状況」では，授業への参加度・貢献度，および学修した授業展開の理解・実践的指導力を評価の観点とする。

「課題」評価では，学修した授業展開の理解・実践的指導力の定着を評価の観点とする。

授業科目名： 小学校プログラミング教育教材論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森山 潤，緒方思源，小山英樹，掛川淳一
			担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>■目的</p> <p>小学校プログラミング教育の考え方を理解するとともに、実際に活用される代表的な教材の特徴を知り、具体的な学習活動の展開を体験することで、実践的指導力を高める。</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校プログラミング教育の目標，考え方を理解する。 ・アンプラグドCS教材，プログラミング導入教材，ビジュアルプログラミング教材，ブロック型ロボット教材などの特徴，利点，授業の展開方法を理解することができる。 			
授業の概要			
<p>本授業では、小学校プログラミング教育の具体的な教材を取り上げ、その特徴、利点などついて講義するとともに、具体的な授業をイメージした活用方法について演習を行う。具体的には、内容①:プログラミング教育の導入教材(アンプラグドCS, Viscuit, WeDo)と学習展開、内容②:ビジュアルプログラミングの特徴と教材研究、内容③:電気回路を制御するプログラミングの基礎と教材研究、内容④:フィジカルプログラミングの基礎と教材研究を取り上げる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：内容① 小学校プログラミング教育の考え方とプログラミング教育の導入活動（森山） 小学校プログラミング教育の目標と考え方，カリキュラムのデザイン，アンプラグドCSの考え方と活動例，Viscuitを用いたプログラミング学習への導入学習の展開</p> <p>第2回：内容① 小学校プログラミング教育の考え方とプログラミング教育の導入教材（森山） フィジカルプログラミング教材(WeDo)を用いたプログラミング学習への導入学習の展開</p> <p>第3回：内容② ビジュアルプログラミングの基礎（緒方） ビジュアルプログラミング(Scratch)の特徴と基本的なプログラミング技法</p> <p>第4回：内容② ビジュアルプログラミングの教材研究（緒方） 算数科「正多角形」などにおけるプログラミングの学習展開</p> <p>第5回：内容③ 電気回路を制御するプログラミングの基礎（小山） 制御用マイコンボード(Microbit)の特徴，基本的なプログラミングの技法</p> <p>第6回：内容③ 電気回路を制御するプログラミングの教材研究（小山） 外部出力端子の利用，理科「電気の性質や働きを用いた道具があることを捉える学習」にお</p>			

<p>けるプログラミングの学習展開</p> <p>第7回：内容④ フィジカルプログラミングの基礎（掛川） フィジカルプログラミング(SpikeBasic)の特徴，ロボットの作り方，基本的なプログラミングの技法</p> <p>第8回：内容④フィジカルプログラミングの教材研究（掛川） 「総合的な学習の時間」における探究/創造学習などでのプログラミングの学習展開 定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>資料を適宜，配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省：小学校プログラミング教育の手引き 文部科学省：小学校プログラミング教育に関する研修教材 兵庫県教育委員会：兵庫県版プログラミング教育スタートパック</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>内容（①～④）ごとの受講・演習状況（評価割合：15%×4=60%），および課題（評価割合：10%×4=40%）で評価する。</p>

授業科目名： 情報モラル・セキュリティ教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 阪東哲也 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
授業のテーマ及び到達目標 学校における情報モラル・セキュリティ教育の概要を理解する。主に、小学校の情報モラル・セキュリティ教育における実践的な授業デザイン、カリキュラム・マネジメントの在り方を考える。			
授業の概要 学習指導要領及び解説の記述に基づき、学校における情報モラル・セキュリティ教育について講義するとともに、情報モラル・セキュリティに関する学習内容を紹介する。情報モラル・セキュリティ教育の教材を体験し、今後の情報モラル・セキュリティ教育の在り方について、考えを深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス、情報モラル・セキュリティ教育の概要 第2回：自他の権利尊重に係る情報モラル・セキュリティ教育の指導内容 第3回：危険回避に係る情報モラル・セキュリティ教育の指導内容 第4回：健康維持に係る情報モラル・セキュリティ教育の指導内容 第5回：学校教育における情報セキュリティ対策の基本 第6回：情報モラル・セキュリティ教育の授業デザイン 第7回：情報モラル・セキュリティ教育とデジタルシチズンシップ教育 第8回：まとめ			
テキスト 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等 適宜、紹介または配布する。			
学生に対する評価 【評価の方法】 授業への参加・貢献度、課題（小テスト含む）で総合的に評価する。 【評価の観点】 「授業への参加・貢献度」では、グループワークへの関与や、授業内容に対する自分の考えの			

深まりを評価の観点とする。

「課題」評価では、講義内容の理解・定着度を評価の観点とする。

授業科目名： 教育データサイエンス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤山郁夫, 森山潤, 中須賀 巧, 宮田(蛭名)佳緒里
			担当形態： 後半クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・指定大学が加える科目		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】			
<p>経験や勘だけに基づく教育改善の限界を踏まえ、データから新たな視点を得るための考え方や、そのために必要なデータサイエンスの基礎的手法について学ぶ。一方で、データに基づく探究にも限界点や多くの留意事項があることを学ぶ。</p>			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> ・因果推論や測定の信頼性・妥当性、推測統計の基礎的な考え方を理解し、教育分野のデータを用いた実践報告や研究事例について、理解したり批判的に読解したりすることができる。 ・統計的仮説検定を中心とした推測統計の実際の手続きについて理解した上で、表計算ソフトやフリーの統計解析ソフトを用いて実際に分析を実行し、結果の読み取りおよび考察を行うことができる。 ・教育分野におけるデータ収集や分析のアイデア、ならびにその意義、留意事項、限界点等について、他者にわかりやすく説明したり、論述したりすることができる。 			
授業の概要			
<p>教育分野での活用が期待されるデータサイエンスの基礎的な事項に関して、毎回、各自事前課題として授業資料を読み込んだ上で、Excelやjs-STAR等の統計分析ツールを用いた演習を行う。対面授業では、グループワークによる理解確認やディスカッション、演習等を中心に行い、他者にわかりやすく説明できる程度にまで理解を深めることを目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1～8回は全体講義・演習、第9～15回はクラス別講義・演習とする（計4クラス）。</p>			
【全体講義・演習】			
第1回 ガイダンス、教育におけるデータ活用事例（澤山）【講義・演習】			
第2回 データ収集の方法(1) 研究デザインと因果推論（澤山）【講義・演習】			
第3回 データ収集の方法(2) 測定の信頼性と妥当性（澤山）【講義・演習】			
第4回 推測統計の基礎(1) 母集団と標本、点推定と区間推定（澤山）【講義・演習】			

第5回 推測統計の基礎(2) 標本分布, 標準誤差 (澤山) [講義・演習]

第6回 推測統計の基礎(3) 統計的仮説検定の考え方, 正確二項検定 (澤山) [講義・演習]

第7回 前半の到達度確認課題 (澤山) [講義・演習]

第8回 前半の到達度確認課題のふり返し・まとめ (澤山) [講義・演習]

【クラス別講義・演習】

第9回 比率の差の検定と, データの対応の有無 (各クラス担当教員) [講義・演習]

第10回 平均値の差の検定(1) t検定 (各クラス担当教員) [講義・演習]

第11回 平均値の差の検定(2) 分散分析と多重比較 (各クラス担当教員) [講義・演習]

第12回 相関係数の検定 (各クラス担当教員) [講義・演習]

第13回 単回帰分析と回帰係数の検定 (各クラス担当教員) [講義・演習]

第14回 後半の到達度確認課題 (各クラス担当教員) [講義・演習]

第15回 後半の到達度確認課題のふり返し・まとめ (各クラス担当教員) [講義・演習]

テキスト

適宜, 各回のテキスト・資料をLMSで配付する。

参考書・参考資料等

石井 秀宗 (2014). 人間科学のための統計分析——こころに関心があるすべての人のために—— 医
歯薬出版

南風原 朝和 (2002). 心理統計学の基礎——統合的理解のために—— 有斐閣

吉田 寿夫 (1998). 本当にわかりやすい すごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北
大路書房

学生に対する評価

各授業の事前課題・対面授業課題 (40%), 前半到達度確認課題 (30%), 後半到達度確認課題 (30%) から総合的に評価する。

- ・各授業の事前課題・対面授業課題では, 自身の理解度に応じた省察や自己課題化に向けた省察の状況の評価する。
- ・前半到達度確認課題では, 因果推論や測定信頼性・妥当性, 推測統計の基礎的な考え方の理解状況, また, 教育分野のデータを用いた実践報告や研究事例について, 理解したり批判的に読解したりする力の習得状況について評価する。
- ・後半到達度確認課題では, 統計的仮説検定を中心とした分析手続きや結果の読み取りおよび考察に関する習得状況, また, 教育分野におけるデータ収集や分析のアイデア, ならびにその意義, 留意事項, 限界点等について, 他者にわかりやすく説明したり, 論述したりする力の習得状況について評価する。

授業科目名： 道徳教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 淀澤 勝治、秋山 博正、谷田 増幸
			担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】「学校における道徳教育と道徳科授業に関する基礎的な理解」</p> <p>【到達目標】道徳教育に関する理念や歴史などについて理解を深めるとともに、学習指導要領を踏まえて学校における道徳教育及び「特別の教科 道徳」（道徳科）の意義と実際について基礎的な理解を図る。子供の実態を踏まえた指導方法や評価など道徳科授業に係る実践的力量的の形成を図る。</p>			
授業の概要			
<p>子供を取り巻く社会の変化、道徳の本質、道徳教育の歴史、道徳性の発達等を踏まえて、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について基礎的な理解を図る。その上で、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な力量形成に資する質の高い多様な指導方法を身に付ける。</p>			
授業計画			
<p>この講義は学校における道徳教育と道徳科授業に関する基礎的な理解を得るために以下のような順序で講義を行う。</p> <p>《第1回》 今日の子どもたちの諸課題（情報モラル等）と道徳教育（担当：淀澤）</p> <p>《第2回》 道徳性の発達と道徳教育（担当：淀澤）</p> <p>《第3回》 道徳科授業の指導案づくり（学習指導過程と学習指導案，板書計画）①（担当：淀澤）</p> <p>《第4回》 道徳科授業の指導案づくり（教材の分析と発問の工夫）②（担当：淀澤）</p> <p>《第5回》 道徳科授業の指導案づくり（指導方法の工夫—動作化・役割演技等）③（担当：淀澤）</p> <p>《第6回》 道徳科授業の指導案づくり（指導方法の工夫—対話的な学び）④（担当：谷田）</p> <p>《第7回》 道徳科における教材の特徴及び道徳科における評価（担当：谷田）</p> <p>《第8回》 授業の実施とその振り返りに基づく道徳科の授業改善（担当：谷田）</p> <p>《第9回》 人権教育や多文化共生教育と道徳教育（いじめの防止）（担当：谷田）</p> <p>《第10回》 教育活動全体を通じて行う指導及び家庭や地域社会との連携による指導（担当：谷田）</p> <p>《第11回》 道徳の本質と道徳教育（担当：秋山）</p> <p>《第12回》 わが国の道徳教育の歴史（担当：秋山）</p> <p>《第13回》 道徳教育の類型（担当：秋山）</p> <p>《第14回》 道徳教育の目標及び内容（担当：秋山）</p>			

《第15回》道徳の指導計画（担当：秋山）

定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月）』（廣済堂あかつき）

小寺正一/藤永芳純編『四訂 道徳教育を学ぶ人のために』2016年，（世界思想社）

淀澤勝治/門脇大輔編『子どものための道徳科授業づくり』2022年，（デザインエッグ株式会社）

参考書・参考資料等

教員から配布されるプリント等

学生に対する評価

【成績評価の方法】作成した指導案や授業内小レポート，授業後のレポート等（評価割合：100%）に授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する。

【成績評価の観点】

○道徳教育に関する理念や歴史などについて理解し，自らの教育観を深めることができている。

○学習指導要領を踏まえ，道徳教育の目標，内容の系統性や各学年間のつながり等について理解し，道徳科における指導と評価について基本的な指導方法や指導技術を身に付けている。

授業科目名： 暮らしのなかの憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今出 和利
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>基本原理、人権・統治機構分野を中心に、関連する時事的なトピック等も題材としながら、「憲法の諸規定が我々の普段の生活にどのような関わりをもっているのか」という視点をもって授業を行う。加えて、憲法解釈における典型的な学説・判例等の「通説的な理解」のみならず、その他の多様な考え方も解説することで、受講生のより深く多面的な理解・考察に資するような授業を行う。</p> <p>受講生が、日本国憲法に関する基本的な知識を身につけるとともに、日常生活において一見縁遠いと思われがちな憲法は、実は我々の社会生活に深くかかわる身近な重要な法であることを理解し、併せて、憲法や法律を学ぶことの面白さを実感することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>最初に法学の基本的な考え方を概説した上で、日本国憲法の基本原理、人権・統治機構分野を中心に授業を展開する。各回の授業後には理解度等を確認するため、オンライン上で小レポートの提出を求める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、法の学び方</p> <p>第2回：法とは何か（法と道徳、成文法と不文法、公法と私法、法の解釈、法の効力関係等）</p> <p>第3回：立憲主義の誕生と展開、日本国憲法制定史</p> <p>第4回：日本国憲法の基本原理、平和主義</p> <p>第5回：包括的基本権（幸福追求権、法の下での平等、個人の尊重等）</p> <p>第6回：自由権①（精神的自由）</p> <p>第7回：自由権②（経済的自由、身体的自由）</p> <p>第8回：社会権（生存権、教育を受ける権利、労働基本権等）、参政権</p> <p>第9回：新しい人権（プライバシー権、環境権等）</p> <p>第10回：立法権（国会の地位と権能、二院制のしくみ、法律の制定過程等）</p> <p>第11回：行政権（内閣の組織、内閣・内閣総理大臣の権能等）</p> <p>第12回：司法権①（司法権の独立、違憲審査権、三審制のしくみ等）</p> <p>第13回：司法権②（裁判員制度等）</p> <p>第14回：地方自治、憲法改正問題等</p>			

第15回：全体のまとめと復習

定期試験

テキスト

特に指定しない。適宜、プリント等を配布する。

参考書・参考資料等

1. 『憲法（第8版）』（岩波書店、2023）、芦部信喜著、高橋和之補訂
2. 『法律学への案内（第2版）』（八千代出版、2021）、金津謙、足立文美恵、佐々木彩、今出和利、齋藤美喜著

その他、授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、毎回の授業後に提出する小レポート（30%）

授業科目名： 体育 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中須賀巧，森田啓之，小田俊明，上原禎弘，野上展子，亀谷涼 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ</p> <p>「生涯にわたってスポーツに親しむことのできる主体の確立」に向けて、仲間と共にスポーツを楽しむためには何が必要かを考えつつ実践する。</p> <p>到達目標</p> <p>スポーツ文化の普遍的価値は「楽しさ」であること、楽しさは自らが生み出そうとする必要があること、さらに、楽しさを得るためには共に集う仲間の楽しさ獲得も不可欠であることを理解する。その場に応じた適切な運動・スポーツの楽しみ方を選択し、実施できるよう幅広い知識とスキルを高めることを目指す。</p>			
授業の概要			
自分の置かれた場面や状況に応じて仲間を楽しませることによって自らが楽しむべく、スポーツの行い方を変えたり、時には全く新たなスポーツを創造できたりするような主体を育成する。そのために、様々な運動（種目）を体験する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション（スポーツライフの実現に向けた運動・スポーツの楽しみ方の多様性）			
第2回 チームスポーツ（ハンドボール）：体育館			
第3回 チームスポーツ（サッカー）：グラウンド			
第4回 チームスポーツ（ソフトバレーボール）：体育館			
第5回 ニュースポーツⅠ（ファミリーバドミントン）：体育館			
第6回 ニュースポーツⅡ（ドッチビー）：グラウンド			
第7回 ニュースポーツⅢ（カバディ）：グラウンド			
第8回 個人スポーツⅠ（長距離走）：グラウンド			
第9回 個人スポーツⅡ（短距離走）：グラウンド			
第10回 個人スポーツⅢ（体の動きを高める運動，トレーニング）：トレーニングルーム			
第11回 エクササイズⅠ（体ほぐし運動，ストレッチング）：ダンスルーム			
第12回 エクササイズⅡ（リズムダンス）：ダンスルーム			
第13回 エクササイズⅢ（エアロビクス）：ダンスルーム			

第14回 運動・スポーツの継続を促すために（理論紹介：フロー理論、自己決定理論など）

第15回 まとめー「仲間とみんなで楽しむ」ために必要なことー

定期試験は実施しない。

テキスト・教科書は指定しない。

参考書・参考資料等

授業において、随時、資料を配布する。

学生に対する評価

方法：授業への取り組み（60%）、課題レポート（20%）、最終試験（20%）により総合的に評価する。

観点：「授業への取り組み」は楽しさを創出しようとする実践度、「課題レポート」と「最終試験」についてはスポーツにおける楽しさについての具体的理解度を、評価の観点とする。

授業科目名： 体育Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小田俊明，森田啓之，中須賀 巧，上原禎弘，野上展子，久 野峻幸
			担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生涯にわたるいずれの年齢段階においても断続的・継続的にスポーツ文化を享受できる人間の育成」を目標とする。加えて，運動に参加し楽しむだけでなく，活動を通じて教える側としての目線，知識，経験を得ることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要 体育科において指導されることが多い種目を中心に、そのルールや種目特性、ならびにその指導法を学ぶ。授業全体を通して、特に指導法を意識させ、学習内容を深化させるための試合のルール、学習条件、場の設定の変更等について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：【講義】オリエンテーション，体育Ⅱのねらい ー体育Ⅰとのつながりー</p> <p>第2回：【実技】スポーツ大会の運営と，キックベースボール1 基本的なルール</p> <p>第3回：【実技】スポーツ大会の運営と，キックベースボール2 学習課題を深めるルール</p> <p>第4回：【実技】スポーツ大会の運営と，ポートボール1 基本的なルール</p> <p>第5回：【実技】スポーツ大会の運営と，ポートボール2 学習課題を深めるルール</p> <p>第6回：【実技】器械運動の基礎</p> <p>第7回：【実技】ボール操作等個人技能の基礎</p> <p>第8回：【実技】ネット型ゲームの楽しみ方と課題をゲームを通して確認する。</p> <p>第9回：【実技】フットボール型ゲーム1</p> <p>第10回：【実技】フットボール型ゲーム2</p> <p>第11回：【実技】表現運動の基礎第12回：</p> <p>第13回：【実技】ニュースポーツの楽しみ方と課題をゲームを通して確認する。</p> <p>第14回：【実技】新体力テスト</p> <p>第15回：【講義】まとめ ー体育スポーツ指導における留意点ー</p>			
定期試験			
テキスト			
適宜資料を配布する			
参考書・参考資料等			

適宜資料を配布する

学生に対する評価

授業への取り組み（50％）、小レポート（30％）、試験（20％）により評価する。

授業科目名： 英語コミュニケーション I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 黒田ジョーン 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】</p> <p>この授業では、身近な話題に関する日本国内や国際事情を把握したうえで、リスニング活動を通して、様々な立場の人の意見を聞きその立場や理由を正確に理解し、ペアやグループでの活動を通して、自分の意見を明確で論理的な英語で表現するための基礎知識について学習する。さらに、多様性について理解しようとする能力と自信を持って英語で表現しようとする意欲や姿勢を伸ばす。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活における身近なトピックについて、英語による他者の意見の要点を確実に聞き取り、正確に理解する力を身につける。 2. 自分の考えや意見をわかりやすい（平易な）英語を使って、相手に伝えられる力を身につける。 			
授業の概要			
<p>授業では基本的に教科書に沿って、進める。本文のリスニング→本文理解確認（Exercise 1）→担当学生による解説→Exercise 2→Vocabulary Buildup→World of English Journalismの順に進める。</p> <p>担当を決め、本文の担当箇所を前もって作成したハンドアウト（事前に配布が提出が必要）を使って、クラスで発表する。内容については、担当教員が確認、補足説明する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：Unit 1 Dogs or Cats?</p> <p>第3回：Unit 2 Dubbing or Subtitling?</p> <p>第4回：Unit 3 Traveling on Your Own or in a Group Tour?</p> <p>第5回：Unit 4 Paper Bags or Plastic Bags?</p> <p>第6回：Mini Test 1 & Preparing for presentation</p> <p>第7回：Group Presentation</p> <p>第8回：Unit 6 Age-based or Performance-based?</p> <p>第9回：Unit 7 Buying Music Online or Buying CDs?</p> <p>第10回：Unit 10 Online Shopping or In-store Shopping?</p>			

第11回：Unit 11 Professional Training or Liberal Arts?

第12回：Unit 15 More Foreign Workers or Not?

第13回：Mini Test 2 & Preparing for presentation

第14回：Individual Presentation (1)

第15回：Individual Presentation (2) & Summary of the course

定期試験は実施しない

テキスト

飯野厚 / Heather Johnson Satoh / 藤井彰子 / 簗田由己子 / 中村洋一 / 大畑甲太 著. 『In My Opinion 話して伸ばす 発信型英語演習』. 金星堂. (ISBN 978-4-7647-4058-7 C1082)

参考書・参考資料等

各授業にて教員より配布します。

学生に対する評価

- ・プレゼンテーション2回（評価割合：50%（グループ：20%、個人：30%））

協同して活動に取り組む姿勢や学習した内容を踏まえ、聞き手にわかりやすい発表を行う意欲、そして他者の意見を聞き、批判的思考力を持って理解しようとする力を評価します。

- ・小テスト2回（評価割合：30%（各15%））

学習した語彙・文法の知識およびリスニングに関する理解度を評価します。

- ・授業への参加：取り組み、課題、リアクションペーパー（評価割合：20%）。

各回での授業への参加、理解度と意欲を評価します。

授業科目名： 英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 黒田ジョーン 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】この授業では、英語のReadingとWritingの力を伸ばし自分の考えを平易な英語で表現する学習をします。</p> <p>具体的には、National Geographicの記事を読み、それをもとにディスカッションし、その後自分の考えを英語で表現してもらいます。</p> <p>【到達目標】本授業でのCEFRの目標：RWB101、RWB102</p>			
授業の概要			
<p>教科書に沿って、Before You Read, Words and Phrases, Summary, 本文のリスニング, Multiple Choice, True or Falseにより、本文の理解をする。このあと、決めた担当者が、ハンドアウトにより難解な点や語彙・表現を説明し、谷が補足説明し、その後、本文に出てきた語彙・表現の演習、作文をする。最後に関連する語彙をVocabularyにより学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：Unit 7A: Powering the Planet</p> <p>第3回：Unit 7B: City of the Future</p> <p>第4回：Unit 8A: China's Grand Canal</p> <p>第5回：Unit 8B: Highway of Dreams</p> <p>第6回：小テスト①、Writing</p> <p>第7回：Unit 9A: The Power of Virtual Reality</p> <p>第8回：Unit 9B: High-Flying Helpers</p> <p>第9回：Unit 10A: What's on Your Mind?(前半: Function of the Brain)</p> <p>第10回：Unit 10A: What's on Your Mind?(後半: Our Emotion)</p> <p>第11回：小テスト②、Writing</p> <p>第12回：Unit 10B: Inside Animal Minds</p> <p>第13回：Unit 12A: Defying Gravity</p> <p>第14回：Unit 12B: The Ultimate Trip</p> <p>第15回：小テスト③、総括</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキストNancy Douglas and David Bohlke (2020) 『Reading Explorer Split 3B』 Third Edition			

(Cengage , ISBN:978-0-357-12368-3)
参考書・参考資料等
学生に対する評価 【成績評価の方法】試験(評価割合：60%), writing 課題(評価割合：40%), 授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価します。 【成績評価の観点】論理的な思考力、表現力を評価の観点とします。

授業科目名：AI・データサイエンス基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 緒方思源・掛川淳一
			担当形態：複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 データ・AIの仕組み・役割・影響・課題・利活用，および統計的なデータ処理の基礎			
【到達目標】 データ・AIの利活用，および統計的なデータ処理のための基礎的な知識・技能獲得			
授業の概要			
前半は（第2回～第11回），放送大学のオンデマンドコンテンツを活用して，社会におけるデータ・AIの利活用の動向，技術的な仕組みの概要，倫理的な課題等について学習する．後半（第12回～第15回）は，前半の学習を踏まえ，具体的なデータの活用方法について演習を交えて学習する．後半回において，教員は，講義・演示と机間巡視を分担する．			
授業計画			
第1回：ガイダンス（放送大学教材のアカウント配付と受講方法の説明を含む．）〔講義・演習〕（緒方，掛川）			
第2回：社会で起きている変化〔講義・演習〕（オンデマンド）			
第3回：社会で活用されているデータ〔講義・演習〕（オンデマンド）			
第4回：データ・AIの活用領域〔講義・演習〕（オンデマンド）			
第5回：データ・AI利活用の技術〔講義・演習〕（オンデマンド）			
第6回：データ・AIの活用現場と最新動向〔講義・演習〕（オンデマンド）			
第7回：データ・AIの倫理（1）：ELSI，個人情報保護〔講義・演習〕（オンデマンド）			
第8回：データ・AIの倫理（2）：データ倫理：〔講義・演習〕（オンデマンド）			
第9回：データ・AI活用と社会の在り方：AI社会原則，データとアルゴリズムでのバイアス，責任論〔講義・演習〕（オンデマンド）			
第10回：データ・AIの留意点：負の事例，情報セキュリティ〔講義・演習〕（オンデマンド）			
第11回：AIと社会の発展，及びオンデマンドの内容に関する質問回答〔講義・演習〕（緒方，掛川）			
第12回：データリテラシー（1）：データを読む〔講義・演習〕（緒方，掛川）			
第13回：データリテラシー（2）：データを説明する〔講義・演習〕（緒方，掛川）			
第14回：データリテラシー（3）：データを扱う〔講義・演習〕（緒方，掛川）			
第15回：データリテラシー（4）：初歩的なAIによるデータ分析，及びまとめ〔講義・演習〕（緒			

方, 掛川) 定期試験は行わない
テキスト 放送大学：「数理・データサイエンス・AI リテラシー講座」 上記以外の資料については，授業中適宜配付する．
参考書・参考資料等 特になし．
学生に対する評価 【成績評価の方法】 授業内容に対する理解状況（50%），及び課題遂行状況（50%）で評価する． 【成績評価の観点】 「授業内容に対する理解状況」評価においては，放送大学オンデマンドコンテンツの内容に対する理解度を評価する． 「課題遂行状況」評価においては，データリテラシーに関する演習課題の達成度を評価する．

授業科目名： 情報処理基礎演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小川修史，緒方思源
			担当形態：複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 情報機器，ソフトウェア，およびネットワークを学習の場や将来の学校教育において活用できるような 基盤づくりを行う。			
【到達目標】 情報機器，ソフトウェア，およびネットワークの基本的な使い方を習得する。 コンピュータ，ソフトウェア，マルチメディア，およびネットワークの実際的な使い方を習得する。			
授業の概要			
本講義では情報機器，ソフトウェア，およびネットワークの基本的な使い方を習得すると共に，コンピ ュータ，ソフトウェア，マルチメディア，およびネットワークの実際的な使い方を習得する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション [講義]			
第2回：インターネットの活用(1)：電子メールとクラウドサービス [講義・演習]			
第3回：インターネットの活用(2)：e-ポートフォリオ [講義・演習]			
第4回：ソフトウェアの活用(1)：表計算ソフトの基本機能 [講義・演習]			
第5回：ソフトウェアの活用(2)：データ入力と表の整形 [講義・演習]			
第6回：ソフトウェアの活用(3)：グラフの作成と参照 [講義・演習]			
第7回：ソフトウェアの活用(4)：関数の役割 [講義・演習]			
第8回：ソフトウェアの活用(5)：関数を利用したデータ処理 [講義・演習]			
第9回：ソフトウェアの活用(6)：文書編集ソフトの基本機能 [講義・演習]			
第10回：ソフトウェアの活用(7)：文書のレイアウトと図表の挿入 [講義・演習]			
第11回：ソフトウェアの活用(8)：プレゼンテーションソフトの基本機能 [講義・演習]			
第12回：ソフトウェアの活用(9)：スライドの提示と効果 [講義・演習]			
第13回：Web上の情報検索および情報倫理の遵守 [講義]			
第14回：電子災害の防止と情報セキュリティの確保 [講義]			
第15回：まとめ [講義]			
定期試験は行わない。			
テキスト			

兵庫教育大学情報処理センター「情報処理基礎演習テキスト」

noa出版編「【リファレンス動画付き】つくりたい!がカタチになる 学生のためのOfficeスキル活用&情報モラル」(noa出版社)を購入しておくこと.

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する.

学生に対する評価

【成績評価の方法】

・演習状況(評価割合:60%),課題・レポート(評価割合:40%)に授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する.

・ただし,3回以上の欠席は「評価対象外」とする.また,すべての課題・レポートの提出を満たさない場合には「評価対象外」とする.

【成績評価の観点】

・「演習状況」評価においては,情報通信機器・ソフトウェアの基本的な利用方法を修得できているかを評価の観点とする.

・「課題・レポート」評価においては,情報通信機器・ソフトウェア,マルチメディア,およびネットワークについて,教育活動に活かすことを想定した実際的な使い方の修得の程度を評価の観点とする.

授業科目名： 教育基礎論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大関達也
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】教育の理念や基本的概念がどのような歴史的・社会的文脈の中で生成し、どのような教育思想によって展開されてきたのかを学ぶ。また、そうすることによって、現代の教育や学校をめぐる諸課題についての基本的認識を深め培う。</p> <p>【到達目標】教育は異世代間の相互作用、学校・家庭・地域社会の間の相互作用として営まれている。その歴史はイニシエーションとしての教育から、学校教育制度の成立を経て、生涯学習の時代に至っている。このような歴史的変遷の中で、教育は何のために営まれ、学校は何のために存在してきたのか。本授業では、教育の理念や学校教育制度が成立した歴史的経緯を理解し、現代の教育や学校をめぐる諸課題に主体的に取り組むための姿勢を身につけることが期待される。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校や教育をめぐる問題は山積している。いじめ、不登校、校内暴力などが報道され、教師の指導力不足がしばしば指摘されている。学校は基本的な知識技能を伝達する場であるとともに、家庭や地域と連携して学び合う共同体を形成する場でもある。学校の存在意義と役割は、時代や社会の変化の中で絶えず問い直されてきた。学校は何のために存在し、教育は何のために行われるのか。本講義では、学校の存在意義と役割、及び教育の本質を理解することを目的とする。そのために、学校と教育の歴史を振り返る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の語義</p> <p>第2回：教育の目的・目標</p> <p>第3回：人間の教育の意味—社会から隔離されて育った野生児の事例から</p> <p>第4回：子どもへの教育的まなざしの成立</p> <p>第5回：家庭教育の意味</p> <p>第6回：学校の起源</p> <p>第7回：近代公教育の理念と学校教育制度の成立</p> <p>第8回：生涯学習社会における学校の役割</p> <p>レポート</p>			
<p>テキスト</p> <p>テキストは使用しない。毎回の授業でレジュメや参考資料等を配布し、参考書を紹介する。</p>			

参考書・参考資料等

主な参考書は下記の通り。

小笠原道雄・森川直・坂越正樹編『教育的思考の作法2 教育学概論』福村出版、2008年。

越後哲治・田中亨胤・中島千恵編『保育・教育を考える―保育者論から教育論へ―』あいり出版、2011年。

坂越正樹監修・丸山恭司・山名淳編『教育的関係の解釈学』東信堂、2019年。

学生に対する評価

授業に対する参加態度および理解度を課題レポートの内容から評価する。評価の観点は、教育の理念と歴史を理解し、自己の教育観を拡大・深化させることができたかという点である。

授業科目名： 教育史 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 平野 亮
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>時代・文化・社会的影響下で成立する「教育」の歴史性について学び、教育に関する理論及び実践の過去を知り、現在を問い、未来を考えることのできるセンスを養う。</p>			
授業の概要			
<p>かつては家政学や政治学の一部として論じられるテーマであった「教育」は、250年前の西洋で生まれた一つの歴史的型である近代教育において、学校教育を中心に論じられるようになった。近代学校教育は、子供を生活・労働から解放したが、同時に個別の生のリアリティから遊離させもした。この葛藤は、現代の教育問題の大きな根源の一つにもなっている。</p> <p>教育史 I では、「教育」及び「学校」がどのような歴史を経て今日に至るのか、主に近代の西洋や日本の教育家の思想や実践、教育制度の変遷についての学びを通じて検討していく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：「教育」の歴史—オリエンテーション</p> <p>第2回：近代社会の教育問題—生活・労働・学校</p> <p>第3回：宗教改革と教育思想—万人教育思想の芽生え</p> <p>第4回：学校制度の整備・確立—公教育と明治期学制</p> <p>第5回：新教育思想・運動・実践—各国の例</p> <p>第6回：戦時体制化する教育—全体主義の統制</p> <p>第7回：戦後の教育改革—個人・社会・子供の権利</p> <p>第8回：総括及び期末試験</p>			
テキスト			
なし。			
参考書・参考資料等			
<p>・古沢常雄・米田俊彦編『教育史』学文社、2009年。</p> <p>その他、資料は授業内で適宜指示・配付する。</p>			
学生に対する評価			
授業終了時のレスポンスペーパー（30%）、期末試験（70%）			

授業科目名： 教育基礎論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大関達也 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】教育の理念や基本的概念がどのような歴史的・社会的文脈の中で生成し、どのような教育思想によって展開されてきたのかを学ぶ。また、そうすることによって、現代の教育や学校をめぐる諸課題についての基本的認識を深め培う。</p> <p>【到達目標】教育は異世代間の相互作用、学校・家庭・地域社会の間の相互作用として営まれている。その歴史はイニシエーションとしての教育から、学校教育制度の成立を経て、生涯学習の時代に至っている。このような歴史的変遷の中で、教育は何のために営まれ、学校は何のために存在してきたのか。本授業では、教育の理念や学校教育制度が成立した歴史的経緯を理解し、現代の教育や学校をめぐる諸課題に主体的に取り組むための姿勢を身につけることが期待される。</p>			
授業の概要			
本授業では、教育基礎論Ⅰを発展させた内容について、講義、文献講読、ディスカッションを通して理解を深める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：人間性への問いの歴史的・社会的意味			
第2回：「力」をめぐる教育言説の系譜			
第3回：規律訓練システムとしての近代学校教育制度の成立			
第4回：学校改革の歴史：19・20世紀転換期における統一学校運動と新教育運動を中心に			
第5回：教育における評価の問題			
第6回：教育と反教育			
第7回：現代的課題としての教育：いじめ・不登校の問題をめぐって			
第8回：総括：教育の可能性／不可能性			
レポート			
テキスト			
テキストは使用しない。毎回の授業でレジュメや参考資料を配付し、参考書を紹介する。			
参考書・参考資料等			
主な参考書は下記の通り。			
小笠原道雄編『教育の哲学』放送大学教育振興会、2003年。			
松下佳代編『〈新しい能力〉は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー—』ミネ			

ルヴァ書房、2010年。

佐藤学編『学校改革の哲学』東京大学出版会、2012年。

今井康雄『反自然主義の教育思想—〈世界への導入〉に向けて—』岩波書店、2022年。

学生に対する評価

授業に対する参加態度および理解度を課題レポートの内容から評価する。評価の観点、教育の理念と歴史を理解し、自己の教育観を拡大・深化させることができたかという点である。

授業科目名： 教育史Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 平野 亮
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
時代・文化・社会的影響下で成立する「教育」の歴史性について学び、教育に関する理論及び実践の過去を知り、現在を問い、未来を考えることのできるセンスを養う。			
授業の概要			
日常生活において「普遍的必然」のように在る事象も、実は「歴史上の変化の所産」に違いない。教育に関わる現在の「自明」もまた、ある歴史の中で生じてきた物事である、という立場から“私たちの教育”を捉え直してみたい。			
教育史Ⅱでは、教育の思想や歴史に関わる古典的な文献の読解、史料の調査・読解、ディスカッションなどを通じて、「教育」を歴史的に考察するトレーニングを行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション—教育史は「サスペンス」			
第2回：「教育」事物起原考			
第3回：教育事典を引く			
第4回：明治期翻訳教育書の原文対照			
第5回：150年前の教師用マニュアルを読む（1）—英国編			
第6回：150年前の教師用マニュアルを読む（2）—日本編			
第7回：教育雑誌を読む			
第8回：オーラル・ヒストリーの紹介—まとめにかえて			
テキスト			
なし。			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・山住正己編『教育の体系』（日本近代思想大系6）岩波書店，1990年。 ・佐藤秀夫『教育の文化史』全4巻，阿吽社，2004-5年。 ・池上俊一『歴史学の作法』東京大学出版会，2022年。 その他，資料は授業内で適宜指示・配付する。			
学生に対する評価			
授業参加・課題への取り組み（60%），期末レポート（40%）			

授業科目名： 教職原論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 別惣淳二・大関達也・平野亮 ・三浦智子
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等に関する基本的事項を学び、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。			
授業の概要 本授業では、教職の意義、教職観の歴史、教員の役割・資質能力・職務内容について、法制度的理論的な観点から理解を深める。併せて、教員として必要な資質能力を身につけるために、どのような学びが必要なのかを主体的に考えられる機会を設定する。			
授業計画 第1回：教職という職業の特徴—教職の専門職性（担当：別惣淳二） 第2回：教員養成の歴史と教師像の変遷（担当：平野亮） 第3回：教員の仕事・役割・責任（担当：別惣淳二） 第4回：教員の資格と身分（担当：別惣淳二） 第5回：教員の勤務環境と資質能力の向上（担当：三浦智子） 第6回：チーム学校—学校内外の連携・協働（担当：三浦智子） 第7回：生涯の課題としての教師の学び（担当：大関達也） 第8回：教員養成スタンダードに基づく学びの意義（担当：別惣淳二） 定期試験は実施しない			
テキスト テキストは使用しない。			
参考書・参考資料等 参考資料は授業中に適宜配付する。参考書の主なものは以下のとおり。 ・久保富三夫・砂田信夫編（2018）『教職論』、ミネルヴァ書房。 ・佐久間亜紀・佐伯胖編（2019）『現代の教師論』、ミネルヴァ書房。 ・教育開発研究所編（2016）『教育の最新事情がわかる本3』教育開発研究所。 ・坂田仰・河内祥子・黒川雅子・山田知代（2017）『新訂第3版 図解・表解 教育法規』教育開発研究所。 ・TEES研究会編（2001）『「大学における教員養成」の歴史的研究』学文社。			
学生に対する評価			

各回で提出する課題レポート（100％）により評価する。

授業科目名： 教職原論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 別惣淳二・大関達也・平野亮 ・三浦智子
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等に関する基本的事項を学び、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。			
授業の概要			
本授業では、教職に関する古典的な基礎文献を読み、教員の役割・資質能力について探究する。併せて、受講生自身の学校経験を批判的に省察し、実践的な知識を生成する機会を設定する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：テーマ設定の主旨と授業の進め方について（担当：別惣淳二・大関達也・平野亮・三浦智子）			
第2回：生涯の課題としての「教養」(1)：石山脩平「現代教師の教養」について（担当：別惣淳二・大関達也・平野亮・三浦智子）			
第3回：生涯の課題としての「教養」(2)：討議・作文（担当：別惣淳二・大関達也・平野亮・三浦智子）			
第4回：教師の「資質」という問題(1)：横須賀薫「教師の教養と教員養成」について（担当：別惣淳二・大関達也・平野亮・三浦智子）			
第5回：教師の「資質」という問題(2)：討論・作文（担当：別惣淳二・大関達也・平野亮・三浦智子）			
第6回：創造と発見のある授業(1)：斎藤喜博「授業による子どもの変革」について（担当：別惣淳二・大関達也・平野亮・三浦智子）			
第7回：創造と発見のある授業(2)：討議・作文（担当：別惣淳二・大関達也・平野亮・三浦智子）			
第8回：まとめ：教員に求められる役割と資質能力について（担当：別惣淳二・大関達也・平野亮・三浦智子）			
定期試験			
テキスト			
テキストは使用しない。課題図書の一部を授業で配付する。			
参考書・参考資料等			
課題図書は次のとおり。			

- ・石山脩平編(1954)『教師と教養』朝倉書店。
- ・横須賀薫(2010)『新版 教師養成教育の探究』春風社。
- ・斎藤喜博(2006)『<人と教育双書>授業』国土社。

参考図書として次の文献を読むことが望ましい。

- ・ダン・ローティ (佐藤学監訳) (2021)『スクールティーチャー—教職の社会学的考察—』学文社。
- ・ドナルド・A・ショーン (柳沢昌一他監訳) (2007)『省察的实践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考—』鳳書房。
- ・ドナルド・A・ショーン (柳沢昌一他監訳) (2017)『省察的实践者の教育—プロフェッショナル・スクールの実践と理論—』鳳書房。
- ・F・コルトハーヘン編 (武田信子監訳) (2010)『教師教育学—理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』学文社。
- ・佐藤学(2015)『専門家として教師を育てる—教師教育改革のランドデザイン—』岩波書店。

学生に対する評価

学生が提出する課題レポート (100%) により評価する。

授業科目名： 教育社会学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 須田康之 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】</p> <p>社会の状況変化、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための国内、国外を含めた教育政策の動向について学ぶ。そのうえで、今日の学校が担う役割と課題について理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <p>教育に関する社会的な事項について基礎的な知識を身につけるとともに、それに関連する課題を理解することを目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>学校を巡る近年の様々な状況変化として、グローバル化、少子化、学校の小規模化、職業構造の変化、高度情報化（生成AIの登場）、家族の変化、を取り上げる。こうした変化のなかで学校が直面する問題と同時に学校が担う役割について解説する。学校が担う役割については、子どもの生活の変化に対応した学校における指導上の課題を明確にし、その解決策を考える。さらに、近年の教育改革の動向を俯瞰し、諸外国の教育改革の状況について言及するとともに学校と地域の連携、子どもの安全を守ることが教育職員としての使命としてあることを学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：学校を巡る近年の様々な状況の変化 (キーワード：グローバル化、少子化、学校の小規模化、職業構造の変化、高度情報化社会)</p> <p>第2回：教室における指導と学習 (キーワード：準拠集団、PM機能、授業のプロセスと集団規範)</p> <p>第3回：子どもの学力と体力の現状 (キーワード：PISA、全国学力学習状況調査、体力調査)</p> <p>第4回：教育の機会均等と格差の問題 (キーワード：教育の機会均等の理念、教育格差、子どもの貧困、包摂型社会)</p> <p>第5回：我が国における近年の教育政策動向 (キーワード：個別最適な学び、協働的な学び、探究型授業、チーム学校)</p> <p>第6回：諸外国の教育事情と教育改革 (キーワード：ボローニャ・プロセス、アメリカ、イギリス、フランス、イタリア、中国、韓国)</p> <p>第7回：学校と地域の連携</p>			

<p>(キーワード：教育基本法第13条、コミュニティ・スクール、学校を核とした地域創生)</p> <p>第8回：学校安全への対応</p> <p>(キーワード：学校保健安全法、安全配慮義務、防犯と防災)</p> <p>定期試験</p>
<p>テキストは使用しない。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波書店、2014年。</p> <p>荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗『新・教育の社会学：〈常識〉の問い方、見直し方』有斐閣、2023年。</p> <p>白井俊『OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来』ミネルヴァ書房、2020年。</p> <p>中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」『中央教育審議会答申第228号』2021年。</p> <p>中澤渉『日本の公教育』中央公論社、2018年。</p> <p>北海道教育大学旭川校地域連携フォーラム実行委員会編『地域連携と学生の学び』協働出版、2013年。</p> <p>南本長穂『新しい教職概論—教師と子どもの社会』ミネルヴァ書房、2016年。</p> <p>山崎博敏編著『学級規模と指導方法の社会学』東信堂、2014年。</p> <p>渡邊正樹『学校安全と危機管理』大修館書店、2020年。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への貢献度10%、課題レポート「学校の再発見」40%、試験50%によって評価する。学校を巡る状況の変化、学校が抱えている課題、近年の教育政策の動向について、基本的事項の理解と重要な概念について説明できることを評価する。</p>

授業科目名：教育制度 論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 川上泰彦，神内聡
			担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校経営や教育行政（公教育の条件整備）に関わる基本的な法令・用語を理解する。 学校経営や教育行政をめぐる現代的な課題や論争点について、諸資料を読み解き、自分なりの意見表明ができる。 さまざまな教育改革を通じた学校環境の変化を理解し、教員として最適な行動をとることができる資質・視野を獲得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、学校教育をめぐる現代的な課題を題材に関連する法制度や改革をめぐる論点を解説する。学校での教育活動を支える教育行政の組織や機能、学校経営の仕組みを理解し、学校教育制度や現代教育改革についてより深い理解を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育に関する法と制度【教科書第5章】（担当：神内） 第2回：学校の組織と経営【教科書第8章】（担当：川上） 第3回：学校内外におけるさまざまなスタッフ【教科書第9章】（担当：神内） 第4回：地方の教育行政と学校【教科書第7章】（担当：川上） 第5回：国の教育行政と学校【教科書第6章】（担当：川上） 第6回：学校と家庭・地域住民【教科書第11章】（担当：川上） 第7回：学校安全と危機管理【教科書第12章】（担当：神内） 第8回：戦後日本の教育制度・政策の展開【教科書第4章】（担当：川上）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>藤田祐介 編著『学校の制度と経営』ミネルヴァ書房（2021年）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の事前学習課題と学習後課題 最終レポート</p>			

授業科目名： 教育社会学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 須田康之 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】</p> <p>学校において、子どもはいかに学ぶのか、その際に、彼らが育ってきた文脈はどのように関連するのかをテーマとして掲げ、彼らの学びを阻害する要因を特定し、いかに主体的かつ自立的な学びを促進できるかを、教育社会学の視点から考える。</p> <p>【到達目標】</p> <p>受講生自身が自分の成長過程を振り返り、子どもたちの置かれた学びの文脈を理解するとともに、学校における子どもの成長を支援する包括的な枠組みを提示できることを目指す。</p>			
授業の概要			
<p>学校を取り巻く状況が変化する中で、子どもは何をどのように学び、成長するのに焦点を定める。子どもがおかれている社会的環境や社会的文脈が、学校での子どもの学びにどのような影響を与えるのかを考慮に入れて、子どもの学びのプロセスと成長の姿を捉える。受講者自身の学校での経験を振り返りながら、子どもの成長を包括的に支援する学校教育の在り方を考える。</p>			
授業計画			
<p>第1回：教育という営為の特徴 (キーワード：学習と社会統制、教育可能性、自己活動)</p> <p>第2回：社会組織としての学校 (キーワード：選抜と配分、再生産論、学習する組織、チーム学校)</p> <p>第3回：教育内容とカリキュラム (キーワード：顕在的カリキュラム、潜在的カリキュラム、カリキュラムの社会的規定)</p> <p>第4回：学校の機能不全とその克服 (キーワード：暴力行為、いじめ、不登校、『学級経営の充実に関する調査研究最終報告書』)</p> <p>第5回：子どものアイデンティティ形成の問題 (キーワード：1次的社会化と2次的社会化、意味ある他者、不本意なスティグマへの抵抗)</p> <p>第6回：教室における子どもの学びと教師の成長 (キーワード：学びの文脈、前理解、意味の生成、省察的实践)</p> <p>第7回：大学と青年 (キーワード：大学進学率、M.トロウ、教養、教育専門職としての学び)</p> <p>第8回：メディア社会の教育</p>			

(キーワード：音声、活字、映像、DX)
テキストは使用しない
<p>参考書・参考資料等</p> <p>荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗『新・教育の社会学：〈常識〉の問い方、見直し方』有斐閣、2023年。</p> <p>サンデル, マイケル著、鬼澤忍訳『実力も運のうち:能力主義は正義か?』早川書房、2021年。</p> <p>須田康之『グリム童話〈受容〉の社会学：翻訳者の意識と読者の読み』東洋館出版、2003年。</p> <p>全米科学・工学・医学アカデミー著、秋田喜代美他訳『人はいかに学ぶのか：授業を変える学習科学の新たな挑戦』北大路書房、2024年。</p> <p>中澤渉『日本の公教育：学力・コスト・民主主義』中央公論社、2018年。</p> <p>ハッティ, ジョン著、山森光陽監訳『教育の効果：メタ分析による学力に与える要因の効果の可視化』図書文化、2018年。</p> <p>吉見俊哉『大学という理念：その絶望の先』東京大学出版会、2020年。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>課題レポート「学校という学びの文脈」60%、小テスト40%によって評価する。学校を巡る状況の変化、子どもの学びの文脈、子どもの学びと成長の実態と学教教育の課題について理解し、学校が遭遇する課題についての解決策を提示できることを評価する。</p>

授業科目名： 教育制度論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 當山清実、三浦智子 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)		
授業のテーマ及び到達目標 学校や教員の職務を支える仕組み（法律、制度、政策）の構造や意義に関する理解を深めるとともに、学校教育が抱える今日的課題に対して、適切に対応する能力と態度を身に付ける。			
授業の概要 主に、①教員の資質能力、②教育課程、③学校マネジメント、④教育ガバナンスといった4つの観点から、学校教育を支える仕組みや実務、制度運用の実態について、経験的データ及び統計データ等を通して理解を深める。また、授業参加者間でのディスカッション等を通して、学校教育の今日的課題に関する多様な見方・考え方に触れ、視野を広げる機会とする。			
授業計画 第1回： オリエンテーション 「教員の資質能力」をめぐる制度(1)：教員の資質能力向上に関する政策動向（担当：當山、三浦） 第2回：「教員の資質能力」をめぐる制度(2)：教員研修に関する実務とその課題（担当：當山、三浦） 第3回：「教育課程」をめぐる制度(1)：我が国における教育課程行政の特徴（担当：當山、三浦） 第4回：「教育課程」をめぐる制度(2)：教育課程の編成・教科書採択に関する実務とその課題（担当：當山、三浦） 第5回：「学校マネジメント」をめぐる制度(1)：学校におけるリーダーシップと組織学習（担当：當山、三浦） 第6回：「学校マネジメント」をめぐる制度(2)：学校運営協議会の役割と学校経営上の課題（担当：當山、三浦） 第7回：「教育ガバナンス」をめぐる制度(1)：公立学校と教育委員会の関係性（担当：當山、三浦） 第8回：「教育ガバナンス」をめぐる制度(2)：指導主事の職務内容とその課題 総括（担当：當山、三浦）			
テキスト 指定しない。授業内において、資料を配布する。			
参考書・参考資料等 窪田眞二、澤田千秋『教育法規便覧』学陽書房			

その他、授業内において適宜紹介する。

学生に対する評価

課題レポート（小レポートを含む）…100%

授業科目名： 発達心理学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 清水（加藤）真由子、細谷里香、石倉健二、藤原和政
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生涯発達の観点から発達のプロセスを理解し、乳幼児期、児童期及び青年期の心身の発達及び学習の過程や、発達における他者との相互的かかわりの重要性について、基礎的な知識を身につける。また、幼児期から青年期までの発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解するとともに、発達障害とその発達の支援について基礎的な知識を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>発達に関する諸理論を概説した上で、乳幼児期から青年期までの各発達段階における、人の心身の発達の過程及び特徴について基礎的な知識が得られるよう講述する。また、子どもの学習や発達障害に関する基礎的な知識も習得し、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解し、子どもの発達と保育・教育との関連を考察できるよう講義を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・発達心理学の理論と子ども観（清水） 第2回：乳幼児期の心身の発達と学びに向かう力（清水） 第3回：幼児期の言語と遊びの発達（清水） 第4回：幼児期の社会性の発達（清水） 第5回：児童期の心身の発達と学習（細谷） 第6回：発達障害の概要（石倉） 第7回：青年期の心身の発達と学校教育への適応（藤原） 第8回：青年期の発達と学習、学習評価（藤原）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>中澤 潤 編著（2009）『発達心理学の最先端—認知と社会化の発達科学』（あいり出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各授業担当者からの課題・レポート（84%）、授業への参加度（16%）</p>			

授業科目名： 教育心理学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉國 秀人，山中 一英
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、①教室での「学び」と「他者とのかかわり」に関する基礎的な心理学理論や知見を学習し修得すること、②児童生徒の心身の発達をふまえながら主体的な学習を支える教員の実践的力量的基礎となる考え方を理解すること、を到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>効果的な学習指導や円滑な学級経営に求められる、児童生徒の学習や社会性、集団や人間関係に関する基礎的な心理学理論と知見を教示する。またその過程では、「主体的・対話的で深い学び」などの学校現場の現代的教育課題について心理学的な側面から理解するとともに、それに対応していくための実践的力量的基礎となる考え方について教示する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションー授業計画、「教育心理学」の概要と授業の進め方ー（担当：山中・吉國）</p> <p>第2回：発達の基礎ー発達とは何か、発達に影響を及ぼす外因と内因ー（担当：吉國）</p> <p>第3回：学習の基礎ー学習とは何か、学習の諸理論と学習のタイプー（担当：吉國）</p> <p>第4回：発達を踏まえた学習指導の工夫ー学習者の素朴理論や誤概念を捉える方法と事例、学習意欲を育む教育の工夫ー（担当：吉國）</p> <p>第5回：教員と児童生徒の人間関係ー教師期待効果とその生起過程ー（担当：山中）</p> <p>第6回：児童生徒同士の人間関係ー社会性の発達と友人関係の展開ー（担当：山中）</p> <p>第7回：学級集団と学級経営ー学級集団の意義と学級経営の課題ー（担当：山中）</p> <p>第8回：まとめと討論ー発達の基礎的理解と教育の意義、学習を支える指導を工夫し続ける教員ー（担当：山中・吉國）</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>本郷一夫・八木成和（編）『シードブック 教育心理学』（建帛社，2010）</p> <p>吉田俊和・橋本剛・小川一美（編）『対人関係の社会心理学』（ナカニシヤ出版，2012）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>次の2つを総合して評価する。①毎授業後に課すレポート（50%） ②全授業終了後に提出を</p>			

求めるレポート（50%）①では，各回の授業内容についての理解がなされているか，授業内容を踏まえて自ら思考を広げているかどうかをみる。②では，教育心理学の基礎知識の修得を確認すると共に，学んだ知識を教育実践につなげようとする思考力が育成されているかどうかを問う。

授業科目名： 発達心理学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 清水（加藤）真由子、細谷里香、石倉健二、藤原和政 担当形態：オムニバス
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>乳幼児期、児童期、青年期、成人期及び老年期の発達と課題について学び、保育者や教育者として必要な子ども理解を深めるための知識を習得する。他者とのかかわりの中で発達していく過程を意識し、発達における人間関係の重要性を理解する。また発達障害の特徴について理解し、どのように支援していけるかを考えることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>発達を人間の誕生（受精）から死を迎えるまでの心身の変化とみなす生涯発達心理学の視点から、胎児期から老年期までの発達の特徴およびその個人差について概説する。また、発達におけるつまづきや発達に偏りをかかえる人の生きづらさとその支援について講術し、保育・教育との関連を考える機会として、社会的に還元できる知識を身につけることができるよう講義を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子どもを取り巻く人間関係と文化（清水） 第2回：アタッチメント理論と親子関係（清水） 第3回：児童期の学校教育への適応と支援（細谷） 第4回：自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症の理解と支援（石倉） 第5回：限局性学習症、発達性協調運動症の理解と支援（石倉） 第6回：青年期の発達と対人関係（藤原） 第7回：成人期・老年期の心身の発達（藤原） 第8回：まとめ（藤原） 定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>中澤 潤 編著（2009）『発達心理学の最先端—認知と社会化の発達科学』（あいり出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各授業担当者からの課題・レポート（84%）、授業への参加度（16%）</p>			

授業科目名： 教育心理学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉國 秀人，山中 一英 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、①教室での「学び」と「他者とのかかわり」に関する心理学理論や知見を学習し修得すること、②児童生徒の心身の発達をふまえながら主体的な学習を支える教員の実践的力量となる考え方を理解すること、を到達目標とする。			
授業の概要 効果的な学習指導や円滑な学級経営に求められる、児童生徒の学習や社会性、集団や人間関係に関する心理学理論と知見を教示する。またその過程では、「主体的・対話的で深い学び」などの学校現場の現代的教育課題について心理学的な側面から理解するとともに、それに対応していくための実践的力量となる考え方について教示する。			
授業計画 第1回：オリエンテーションー授業計画、「教育心理学」の概要と授業の進め方ー（担当：山中・吉國） 第2回：発達の基礎ー言語や認知の発達、社会性の発達ー（担当：吉國） 第3回：学習の基礎ー記憶のメカニズム、先行オルグ論と有意義学習ー（担当：吉國） 第4回：発達を踏まえた学習指導の工夫ー概念形成、授業における援助法の工夫の実際、知識獲得と意欲との関係ー（担当：吉國） 第5回：教員と児童生徒の人間関係ー児童生徒理解のための視点ー（担当：山中） 第6回：児童生徒同士の人間関係ー友人関係の諸相ー（担当：山中） 第7回：学級集団と学級経営ー学級の集団づくりを支える授業の構造ー（担当：山中） 第8回：まとめと討論ー発達の理解と教育の意義、学習を支える指導を工夫し続ける教員ー（担当：山中・吉國）			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 本郷一夫・八木成和（編）『シードブック 教育心理学』（建帛社，2010） 吉田俊和・橋本剛・小川一美（編）『対人関係の社会心理学』（ナカニシヤ出版，2012）			
学生に対する評価 次の2つを総合して評価する。①毎授業後に課すレポート（50%） ②全授業終了後に提出を求めるレポート（50%）①では、各回の授業内容についての理解がなされているか、授業内容			

を踏まえて自ら思考を広げているかどうかをみる。②では、教育心理学の知識の修得を確認すると共に、学んだ知識を教育実践につなげようとする思考力が育成されているかどうかを問う。

授業科目名： 特別支援教育概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井澤信三、高野美由紀、岡村章司
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。</p> <p>2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。</p> <p>3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
授業計画			
第1回：インクルーシブ教育の理念（担当：井澤信三）			
第2回：特別支援教育システム(1)：概要（担当：井澤信三）			
第3回：特別支援教育システム(2)：教育課程（担当：井澤信三）			
第4回：特別支援教育システム(3)：個別の指導計画及び個別の教育支援計画（担当：井澤信三）			
第5回：多様な障害の特性理解と支援(1)：医療機関等との連携、肢体不自由、病弱（担当：高野美由紀）			
第6回：多様な障害の特性理解と支援(2)：視覚障害、聴覚障害（担当：高野美由紀）			
第7回：多様な障害の特性理解と支援(3)：外国にルーツを持つ子ども等（担当：高野美由紀）			
第8回：通常学級における特別支援教育の実際（担当：井澤信三）			
第9回：軽度知的障害の特性理解と支援（担当：井澤信三）			
第10回：発達障害（LD、ADHD）の特性理解（担当：井澤信三）			
第11回：発達障害（LD、ADHD）への支援（担当：井澤信三）			
第12回：発達障害（ASD）の特性理解（担当：岡村章司）			
第13回：発達障害（ASD）への支援（担当：岡村章司）			
第14回：学校と家庭との連携（担当：岡村章司）			
第15回：学校と地域との連携（担当：岡村章司）			

定期試験
テキスト 特に指定せずに、授業時に随時資料として配付する。
参考書・参考資料等 障害児心理入門（井澤信三・小島道生編著，ミネルヴァ書房）
学生に対する評価 レポート試験（80%）、各授業におけるワークの取組状況（20%）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安藤（川上）福光 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の基本的な知識について、理解することができる ・学習指導要領の変遷を理解することができる ・教育課程の現代的な課題を理解し、実践に生かすことができる、 			
授業の概要			
<p>変化の著しい現代社会では、教育課程に求められる内容もまた著しい変化を余儀なくされている。本講義においては、先の変化に対応した教育課程編成を実行できるようにするため、教育課程に関する基本的な知識、これまでの学習指導要領の変遷を扱いながら、教育課程の現代的な課題について、受講生の理解を深めることを目的とする。あわせてそれを実際の編成に生かすための考え方、方法について受講生と検討する。</p>			
授業計画			
第1回：教育課程とカリキュラム：それぞれの概念の整理			
第2回：教育課程と学習指導要領：学習指導要領について			
第3回：教育課程行政：文部科学省と教育委員会の役割			
第4回：アメリカのカリキュラム改革：アメリカのカリキュラム改革の歴史			
第5回：戦前の教育課程の歴史：明治期から終戦直後まで			
第6回：学習指導要領の歴史的展開（1）：			
－昭和22年版、昭和26年版学習指導要領－			
第7回：学習指導要領の歴史的展開（2）：			
－昭和33年版、昭和43年版、昭和52年版学習指導要領－			
第8回：学習指導要領の歴史的展開（3）：			
－平成元年版、平成10年版（平成15年一部改正含む）学習指導要領－			
第9回：21世紀の学習指導要領：平成20年版学習指導要領、平成29年学習指導要領			
第10回：教育課程の編成と評価：教育課程の編成と評価の方法			
第11回：教科と教科外の教育課程：教科と教科外活動の教育課程の内容			
第12回：各校種の教育課程：小学校、中学校、高等学校の教育課程の構成			
第13回：学習指導要領と教科書：教科書の定義、教科書検定と教科書採択制度			
第14回：総合的な学習の時間：創設の趣旨、特徴、特色ある取り組み			
第15回：教育課程の現代的な課題			

ー社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学び、
小中・中高一貫教育の教育課程、学力と教育課程、などー

定期試験

テキスト

・根津朋実・樋口直宏編著（2019）『教育内容・方法【改訂版】』培風館

参考書・参考資料等

- ・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領』
- ・文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』

学生に対する評価

到達目標に関する期末試験100%で判定する。

授業科目名： 総合的な学習の時間の 理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鈴木正敏，勝見健史，森廣浩一 郎，掛川淳一，小川修史
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「総合的な学習の時間」の意義やその位置付けと考え方を理解し、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。期待される学習効果としては、実践的な指導案の作成ができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「総合的な学習の時間」について理論と指導方法、目標・内容(情報，福祉，国際理解，環境等)の理解，ならびに指導計画・評価が具体的に実践できる能力の獲得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領における「総合的な学習の時間」（鈴木） 第2回：総合的な学習の単元構成と指導計画（鈴木） 第3回：総合的な学習における主体的・対話的で深い学び（鈴木） 第4回：総合的な学習における情報（森廣，掛川，小川） 第5回：総合的な学習における福祉（鈴木） 第6回：総合的な学習における環境（鈴木） 第7回：総合的な学習における国際理解（鈴木） 第8回：総合的な学習における実践と評価（勝見）</p> <p>定期試験は行わない</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間(最新版) ・中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間(最新版) ・高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説・総合的な探求の時間(最新版) 			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>参考書，資料についてはその都度紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>【成績評価の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業担当教員が，それぞれの到達目標に対する到達状況(30%)，各授業でのカンファレンスへの参加度(30%)、レポート(40%)を評価する。 			

・ただし、3回以上の欠席は「評価対象外」とする。また、すべての課題・レポートの提出を満たさない場合には「評価対象外」とする。

【成績評価の観点】

- ・各回の到達目標・内容理解の到達度
- ・カンファレンスにおける、授業者・学習者の立場から総合的な学習の省察
- ・開発された全体計画・指導案の実践可能性等に関わる洞察

授業科目名： 特別活動論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 真田穰人 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の意義と特質，目標及び内容を理解する。 ・特別活動の指導のあり方を理解し，実践的指導力の基礎を身に付ける。 			
授業の概要			
<p>特別活動は，学校における様々な構成の集団での活動を通して，課題の発見や解決を行い，よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。特別活動では，「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点が育成を目指す資質・能力に関わっており，学習過程においても重要な意味をもつ。本科目では，特別活動の意義や目標，また，学級活動・ホームルーム活動，児童会・生徒会活動，クラブ活動，及び学校行事の目標及び指導内容や実践事例を学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：特別活動の目標と内容			
第2回：特別活動と他の教育活動との関連			
第3回：学級活動・ホームルーム活動の目標と内容			
第4回：児童会・生徒会活動，クラブ活動，学校行事の目標と内容			
第5回：特別活動の指導の実際			
第6回：特別活動の評価と方法			
第7回：特別活動における家庭・地域社会や関係機関との連携			
第8回：特別活動を担う教師に求められる資質・能力			
定期試験は実施しない			
テキスト			
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東洋館出版，2018			
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東山書房，2022			
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東京書籍，2019			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
授業の進行に合わせて課されるレポート（評価割合：100%）により評価する。			

レポートでは、特別活動の内容と指導法に関する知識の習得度、及びその活用力と表現力を評価の観点とする。

授業科目名： 特別活動論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 真田穰人 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の理論や方法論と指導の実際を理解する。 ・特別活動の実践事例をもとにその指導法を理解し、実践的指導力を身に付ける。 			
授業の概要			
<p>本科目では、学習指導要領に示された四つの内容である学級活動・ホームルーム活動、児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事を中心に、その理論と方法論、そして児童の実際について、実践事例をもとに学ぶ。また、特別活動の三つの視点である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点をもとに、特別活動と生徒指導、学習指導、及びキャリア教育との関連とその指導の方法について学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス、特別活動の意義			
第2回：学級活動・ホームルーム活動の理論と実践			
第3回：児童会活動・生徒会活動の理論と実践			
第4回：クラブ活動・部活動の理論と実践			
第5回：学校行事の理論と実践			
第6回：特別活動と生徒指導			
第7回：特別活動と学習指導			
第8回：特別活動とキャリア教育			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東洋館出版，2018			
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東山書房，2022			
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東京書籍，2019			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
授業の進行に合わせて課されるレポート（評価割合：100%）により評価する。			
レポートでは、特別活動の内容と指導法に関する知識の習得度、及びその活用力と表現力を評			

価の観点とする。

授業科目名： 教育方法論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 徳島 祐彌
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 ・教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 			
授業の概要			
<p>学習指導要領改訂に伴い、育成すべき資質・能力を明確化するとともに、学習・指導と評価を一体的に改善することが目指されている。そうした中で、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業の実現が期待されている。本科目では、理論的な講義に加えて、具体的な事例をもとにして、教育方法に関する基本的な理論と技術について理解できるようにする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の在り方 第2回：教育方法の基礎理論 「教授学」「教育学」の歴史的遺産 第3回：授業の設計と学習指導案の作成 第4回：教育目標・教育内容の考え方 第5回：教材・教具づくりの方法 第6回：板書・発問の技術 第7回：学習形態・学習環境の工夫 第8回：学習評価の理論と方法</p>			
テキスト			
授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
<p>田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之（2019）『新しい時代の教育方法（改訂版）』有斐閣 文部科学省『小学校 学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』</p>			
学生に対する評価			
毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）、最終提出物（50%）			

授業科目名： 教育方法論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 徳島 祐彌 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な優れた教育方法・技術の特徴を分析し、説明することができる。 ・教育方法に関する諸概念を活用して、実際に授業をつくり、実践することができる。 			
授業の概要			
<p>「教育方法論Ⅰ」では、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業の実現に向けて、基礎的な理解を図っている。本科目では、その内容を踏まえつつ、引き続き理論的な講義に加えて、具体的な事例を分析したり、自ら授業づくりをしたりすることを通して、教育方法に関する発展的な理論と技術について理解できるようにする。</p>			
授業計画			
第1回：知識の構成と単元・授業づくり			
第2回：教材・教具（1）教材づくり			
第3回：教材・教具（2）教科書の役割と活用			
第4回：授業の展開・発問づくり			
第5回：認知的活動に着目した授業づくり			
第6回：子どものつまずきと授業づくり			
第7回：授業研究と授業記録			
第8回：メディア・リテラシーと授業づくり			
テキスト			
授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
石井英真（2020）『授業づくりの深め方：「よい授業」をデザインするための5つのツボ』ミネルヴァ書房			
学生に対する評価			
毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）、最終提出物（50%）			

授業科目名： 教育情報化概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森山 潤
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>■授業のテーマ</p> <p>本授業では、学校における教育情報化の全体像を俯瞰的に取り上げる。教育情報化の3つの柱である情報教育、教科等の指導におけるICT活用、校務の情報化等についてその考え方と実践事例を学修する。</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習基盤としての情報活用能力の概念、及び情報教育の考え方、実践事例を理解する。 ・教科等の指導におけるICT活用について、教員による活用、児童生徒による活用の考え方、実践事例を理解する。 ・校務の情報化の考え方、環境整備や外部連携等の事例について理解する。 			
授業の概要			
<p>本授業では、教育情報化の背景、経緯、これから求められる未来の姿など、その動向を軸に、情報教育、教科等の指導におけるICT活用、校務の情報化の在り方等について講義・演習を行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス、および情報社会の進展と教育の情報化</p> <p>第2回：学習基盤としての情報活用能力の考え方とカリキュラムマネジメント</p> <p>第3回：教科等の指導におけるICT活用の考え方と実践事例</p> <p>第4回：プログラミング教育の考え方と実践事例</p> <p>第5回：情報モラル・セキュリティ教育の考え方と実践事例</p> <p>第6回：特別支援教育におけるICT活用の考え方と実践事例</p> <p>第7回：校務の情報化の推進と教育データの活用、遠隔教育の可能性</p> <p>第8回：学校におけるICT環境整備と情報セキュリティの確保、外部の人材や機関との連携</p> <p>未来の教育情報化の展望</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト			
なし。適宜、資料を配布する。			

参考書・参考資料等

適宜資料を配付する

学生に対する評価

【成績評価の方法】

各回レポート（評価割合：80%）、最終課題レポート（評価割合：20%）に授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する。

【成績評価の観点】

- ・各回レポートでは、各回で取り上げた学修内容に対する理解度を評価の観点とする。
- ・最終課題レポートでは、教育情報化の実践プランについて構想されているかを評価の観点とする。

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：森本哲介、 隈元（牛山）みちる 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 生徒指導に関する基礎的事項を理解すること、時事的な問題をとりあげ今日求められている生徒指導実践例の分析から生徒指導の機能及び意義について考察を行うことができることを目標とする。			
授業の概要 学校における生徒指導の諸課題を総合的に理解するとともに、実践に役立てるための代表的な指導方法（ガイダンス、カウンセリング、集団づくり、関係機関との連携等）の理論と技法について学習し、チーム学校運営への対応の実際についても理解する。 教育現場で、教師がかかわる生徒指導・進路指導の実際について、具体的なテーマに沿って理解できるよう授業内容を構成する。チーム学校運営への対応を含めた実際の運用が可能となるよう、実際の学校における諸課題への対応について、講義・演習を用いて授業を展開する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・生徒指導とは（森本） 第2回：さまざまな児童生徒の特性（特別支援との関連）（隈元） 第3回：児童生徒への対応と学校環境（発達障害の二次障害について）（隈元） 第4回：特別支援の対応と保護者との関係作り（隈元） 第5回：学校におけるいじめへの対応と保護者との関係作り（森本） 第6回：虐待の現状と学校での関わり（森本） 第7回：不登校の現状と対応（森本） 第8回：学校内外の連携（森本） 定期試験 実施しない			
テキスト 授業時に資料を配付する。			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）、 生徒指導提要（令和4年12月）			
学生に対する評価 授業途中で適宜実施する小レポート課題（80%）と、まとめの課題（20%）によって評価する			

- 。評価の観点、生徒指導の各項の内容を理解し、実践に必要な知識を持っていることとする
- 。

授業科目名： 教育相談論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 上田勝久、永山智之 担当形態：複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育相談は幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育相談の基礎（概念規定、児童生徒理解、予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談）、個別支援の理論と方法（アセスメント、コンサルテーション、カウンセリング）、教育臨床の実際（不登校、いじめ、非行、発達障害）について理解を深める。また、教職員のメンタルヘルスの重要性についても理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校教育相談の概念規定と歴史的変遷<学校教育相談実践史> 第2回：学校教育相談の基礎(1)<児童生徒理解> 第3回：学校教育相談の基礎(2)<開発・予防的教育相談> 第4回：教育相談論と社会情勢の変遷 第5回：スクールカウンセラーについて 第6回：不登校支援 第7回：いじめについて考える 第8回：特別な支援ニーズをもつ子どもへの支援</p>			
<p>テキスト</p> <p>春日井敏之・伊藤美奈子 『よくわかる教育相談』 ミネルヴァ書房 2011年 大野精一・藤原忠雄 『学校教育相談の理論と実践』 あいり出版 2018年</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業の参加態度（60%）、レポート等（40%）を総合的に評価する。なお「受講の参加態度」は授業中の積極的・能動的な参加態度を評価する。また「レポート」は各部毎に授業内容に関して適切に理解ができているかについて評価する。</p>			

授業科目名： 教育相談論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 上田勝久、永山智之 担当形態：複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育相談は幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む）を身に付け、さらに実践活用できる力を育む。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育相談において必要なアセスメント、コンサルティング、各種のカウンセリング技能について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：カウンセリングの理論（行動療法の理論について） 第2回：カウンセリングの実際（認知療法の理論について） 第3回：カウンセリングの理論（面接で活かす） 第4回：カウンセリングの実際（支援現場で活かす） 第5回：個別支援の方法 第6回：個別支援におけるアセスメント 第7回：個別支援におけるカウンセリング 第8回：個別支援におけるコンサルテーション</p>			
<p>テキスト</p> <p>春日井敏之・伊藤美奈子 『よくわかる教育相談』 ミネルヴァ書房 2011年 大野精一・藤原忠雄 『学校教育相談の理論と実践』 あいり出版 2018年</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業の参加態度（60%）、レポート等（40%）を総合的に評価する。なお「受講の参加態度」は授業中の積極的・能動的な参加態度を評価する。また「レポート」は各部毎に授業内容に関して適切に理解ができているかについて評価する。</p>			

授業科目名： キャリア教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森本哲介
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>進路指導・キャリア教育は、生徒指導の中でも児童生徒の生き方や自己実現にかかわる重要な援助・指導であることを理解し、キャリア教育の意義目的・内容・方法について基礎的理解をするとともに、教育実践例の分析を通じた多様なキャリア教育・進路指導のアプローチを知り、実践化に向けての考察を深めることを目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>学校における進路指導・キャリア教育の諸課題を総合的に理解するとともに、実践に役立つための代表的な指導方法（ガイダンス、カウンセリング、体験活動）の理論と技法について学習し、また進路指導・キャリア教育にかかわる評価改善の推進や学校内外の組織的体制に必要な知識についても理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 進路指導・キャリア教育とは 第2回：特別活動を要としたキャリア教育・ 第3回：キャリア教育で育成する資質・能力 第4回：キャリア教育の評価 第5回：職業選択 第6回：キャリアカウンセリングの理論 第7回：キャリアカウンセリングの技法 第8回：キャリアガイダンス・アントレプレナーシップ・就労・就職情報 定期試験 実施しない</p>			
テキスト			
授業時に資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
<p>中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）、 生徒指導提要（令和4年12月）</p>			
学生に対する評価			
<p>授業途中で適宜実施する小レポート課題（80%）と、まとめの課題（20%）によって評価する。評価の観点は、進路指導・キャリア教育の内容を理解し、実践に必要な知識を持っているこ</p>			

ととする。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (幼・小・中・高)	単位数：2単位	担当教員名：別惣淳二， 佐田久（高馬）真貴，嶋崎まゆみ， 岡村章司，井澤信三，西田太郎，近藤暁子， 福田喜彦，濱中裕明，加藤（松本）久恵， 山本将也，竹村静夫，河内勇，高木厚子， 筒井茂喜，上原禎弘，永田智子， 永田（東郷）夏来，飯野祐樹，水落洋志， 門脇（稲吉）早聴子			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	21人(8クラスで実施)				
教員の連携・協力体制 学部教務委員会の下に設置する「教職実践演習専門部会」を中心とした授業担当教員に加えて、各教科を担当するグループの教員、教育学、心理学、特別支援教育を担当する部門の教員、4年間、学修成果シート（履修カルテ）を活用した指導を行ったクラス担当教員やゼミ指導教員など教員が連携することにより、総括的な体制を構築する。 また、現職教員を招聘して学校現場の実際に即した実践的な内容となるように企画・立案している。					
授業のテーマ及び到達目標 教職実践演習は、平成20年の教育職員免許法の改正によって新設された教職に関する科目であり、教員免許状を取得するためには必ず履修しなければならない。 本科目は、大学4年間の各授業科目の履修やそれ以外での様々な活動等を通して身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかどうか、大学が養成すべき教師像や到達目標等に照らして最終的に確認することを目的とする。本科目の履修を通して、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることとする。					
授業の概要 4年間の学修成果シート（履修カルテ）を活用した指導や授業等の履修で身に付けた資質能力を事例研究、模擬授業、グループ討論等を通じて確認する。					
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の趣旨，ねらい，進め方について説明。 【第1回担当教員：全教員】 第2回：事例研究1 学校や学級に遍在する出来事／実習等で経験した事例について問題点や対応策を討論する。 第3回：事例研究2 学校や学級に遍在する出来事／実習等で経験した事例について問題点や対応策を討論する。 第4回：事例研究3 学校や学級に遍在する出来事／実習等で経験した事例について問題点や対応策を討論する。					

第5回：事例研究4 学校や学級に遍在する出来事／実習等で経験した事例について問題点や対応策を討論する。

第6回：事例研究5 学校や学級に遍在する出来事／実習等で経験した事例について問題点や対応策を討論する。

第7回：事例研究6 学校や学級に遍在する出来事／実習等で経験した事例について問題点や対応策を討論する。

【第2～7回担当教員：別惣淳二，佐田久真貴，嶋崎まゆみ，岡村章司，井澤信三】

第8回：模擬授業1 学生各自がICTを積極的に活用した指導案を作成し，模擬授業を行い，教科の専門的な知識力や指導力について，教科専門の教員，教科指導法の教員，現職教員から指導を行うとともに，クラスでの意見交換・討論を行う。

第9回：模擬授業2 学生各自がICTを積極的に活用した指導案を作成し，模擬授業を行い，教科の専門的な知識力や指導力について，教科専門の教員，教科指導法の教員，現職教員から指導を行うとともに，クラスでの意見交換・討論を行う。

第10回：模擬授業3 学生各自がICTを積極的に活用した指導案を作成し，模擬授業を行い，教科の専門的な知識力や指導力について，教科専門の教員，教科指導法の教員，現職教員から指導を行うとともに，クラスでの意見交換・討論を行う。

第11回：模擬授業4 学生各自がICTを積極的に活用した指導案を作成し，模擬授業を行い，教科の専門的な知識力や指導力について，教科専門の教員，教科指導法の教員，現職教員から指導を行うとともに，クラスでの意見交換・討論を行う。

第12回：模擬授業5 学生各自がICTを積極的に活用した指導案を作成し，模擬授業を行い，教科の専門的な知識力や指導力について，教科専門の教員，教科指導法の教員，現職教員から指導を行うとともに，クラスでの意見交換・討論を行う。

第13回：模擬授業6 学生各自がICTを積極的に活用した指導案を作成し，模擬授業を行い，教科の専門的な知識力や指導力について，教科専門の教員，教科指導法の教員，現職教員から指導を行うとともに，クラスでの意見交換・討論を行う。

【第8～13回担当教員：西田太郎，近藤暁子，福田喜彦，濱中裕明，加藤久恵，山本将也，竹村静夫，河内勇，高木厚子，筒井茂喜，上原禎弘，永田智子，永田夏来，飯野祐樹，水落洋志，門脇早穂子】

第14回：まとめ1 [学級経営] 学級経営についての講義を受講し，演習を行う。

第15回：まとめ2 [学びの総括] 4年間に履修した授業科目や授業外の様々な活動を通じて身に付けた資質能力について，「学修成果シート（履修カルテ）」（全学年分）を活用しつつ，グループ討論等により振り返り・まとめを行う。

【第14, 15回担当教員：全教員】

※事例研究（第2～7回）と模擬授業（第8～13回）については，実施順を入れ替えることがある。

テキスト

模擬授業，事例研究では，必要の都度提示する。また，各自作成した「学修成果シート（履修カルテ）」（全学年分）を印刷して持参すること。

参考書・参考資料等

小学校・中学校・高等学校の学習指導要領及び幼稚園教育要領

学生に対する評価

(1) 各授業（事例研究，模擬授業，グループ討論等）における参加姿勢や発表内容，レポート等を総合的に判断する。

(2) 評価の観点

○事例研究

- 1) 事例における問題を明確にすることができる
- 2) 問題の原因を追及することができる
- 3) 問題への対応策を考えることができる

○模擬授業

- 1) 学習指導要領が示す目標や内容について理解している
- 2) 教科等の内容に即した指導方法と評価方法について理解している
- 3) 板書，発問，指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている
- 4) 「一斉学習」「個別学習」「協働学習」等の様々な学習場面において，ICTを積極的に活用して授業を行う技術を身につけている
- 5) 授業研究に積極的に取り組むことができる

○模擬保育

- 1) 幼稚園保育要領(保育所保育指針)が示す目標や内容について理解している
- 2) 各領域等の保育内容に即した指導方法と評価方法について理解している
- 3) 言葉のかけ方など，保育を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている
- 4) 保育研究に積極的に取り組むことができる

○まとめ〔学級経営〕〔学びの総括〕

- 1) 学級経営の理念、仕組み、実践方法について理解している
- 2) 教員養成スタンダードに基づいて4年間で身に付けた資質能力を明確にすることができる
- 3) 教職に就くにあたっての自己課題を明確にすることができる

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

年度 学修成果シート

学校教育学部 ○○グループ	○○ ○○
---------------	-------

目標

今年度の目標

大学卒業時の最終目標を確認しながら、今年度の目標を入力しましょう。
具体的な目標を立てると、達成度の評価がしやすくなります。教員養成スタンダードを参考にするといいでしょう。

(参考) 目標を立てるときに考えること

- ・努力や時間を要すること、今からすぐに始められることは何か（達成に時間が掛かるなら、1年次から意識的に取り組む必要があります）
- ・達成する上で助け／妨げとなりそうなことは何か（支援を受けたり、達成を遅らせる原因を解決したりすることで、その目標の達成時期が早まるかもしれません）

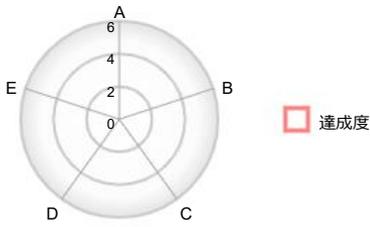
目標に対して努力し続けることは重要ですが、それを立てたときには思いもしなかった困難があるかもしれません。そのような場合、即時に目標を見直し、修正しましょう。

達成したい内容	
---------	--

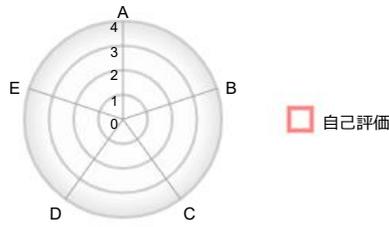
活動成果

全体

達成度



評価

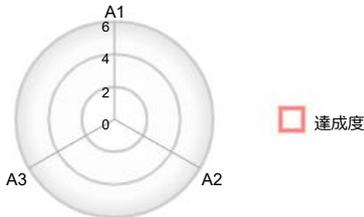


目標領域		達成度	自己評価
A	学び続ける教師	0.0	
B	教師としての基本的素養	0.0	
C	子ども理解に基づく学級経営・生徒指導	0.0	
D	教科等の指導	0.0	
E	連携・協働	0.0	

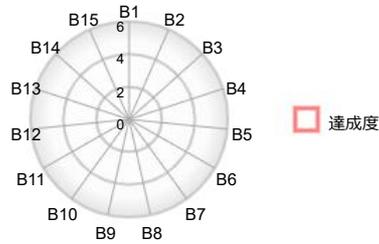
目標領域

達成度

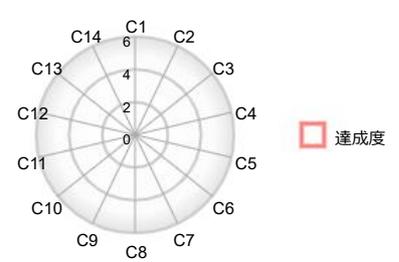
学び続ける教師



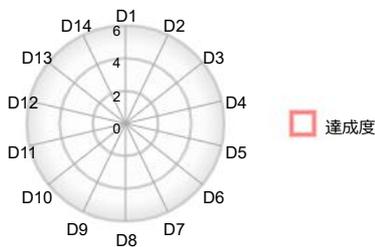
教師としての基本的素養



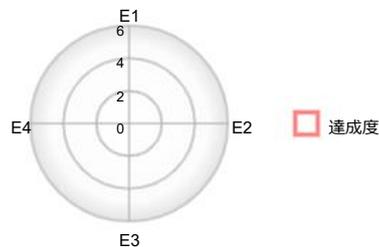
子ども理解に基づく学級経営・生徒指導



教科等の指導

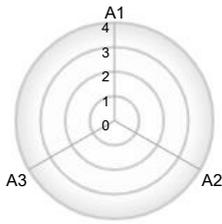


連携・協働

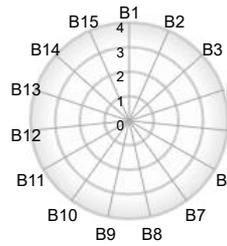


評価

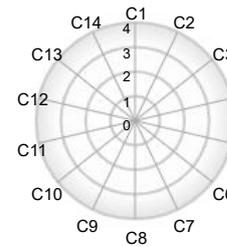
学び続ける教師



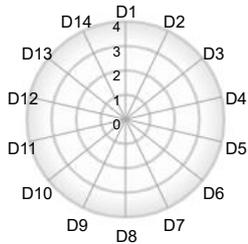
教師としての基本的素養



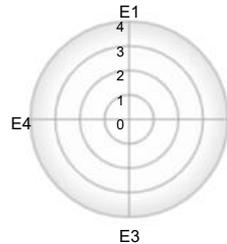
子ども理解に基づく学級経営・生徒指導



教科等の指導



連携・協働



学び続ける教師

目標分類	到達目標	達成度	評価根拠	自己評価
A1	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学びを振り返り、知識や理解の不十分な点に気づくことができる ・自らの教育実践を振り返り、実習ノートやポートフォリオで成果や課題を整理することができる ・大学の授業を通して自己の教師像を絶えず捉え直すことができる など 	0.0		
A2	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や理解を深めるため、授業の予習や復習を積極的に行っている ・自己の研究テーマを持ってゼミに主体的に参加している ・研究に必要な情報・資料を収集し、活用することができる など 	0.0		
A3	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の授業科目等が大学での4年間の学びや将来の教師の仕事にどのように役立つかを意識して自らの成長を図ることができる ・自己の理想的な教師像を具体的に述べるができる ・教員養成スタンダード等を手がかりに、教師の生涯にわたる成長という視点から、自己の現状と課題を述べるができる など 	0.0		

教師としての基本的素養

目標分類	到達目標	達成度	評価根拠	自己評価
B1	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況に合った服装や言葉づかいができる ・日頃から社会生活上の基本的なルールを守っている ・明朗かつ積極的に物事に取り組んでいくことができる ・配慮を必要とする人に適切に対応しようとする姿勢を持っている など 	0.0		
B2	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動において自らの役割を見出し、積極的に活動に参加することができる 	0.0		

	を発揮することができる	・ 集団内の多様な意見に耳を傾け、集団をまとめることができる など			
B3	自らのストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる	・ 教師のストレスをめぐる問題（「バーンアウト」等）とその要因・対処法について知っている ・ ストレスを発散するための自分なりの方法を身につけている ・ 困難な事態に対しても問題解決に向けて粘り強く取り組むことができる ・ 自身の健康を考えて日常的に適度な運動を行っている など	0.0		
B4	日本及び外国の文化・歴史・環境問題、平和問題等についての幅広い知識を持っている	・ 日本及び外国の文化・歴史に興味を持ち、書物を読んだり、旅行をしたりしている ・ 環境問題や平和問題に関心を持ち、それらについて調べたり、友人等と話し合ったりしている など	0.0		
B5	教師としての使命感を持ち、その役割と職務内容を理解している	・ 教師としての使命感を持って教育実習や学校支援ボランティアに臨んでいる ・ 教師の服務事項（職務上・身分上の義務）について知っている など	0.0		
B6	教育に関する社会的・制度的事項を理解し、現代の学校教育の課題を把握することができる	・ 教育基本法と教育三法（「学校教育法」、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」、「教育職員免許法及び教育公務員特例法」）の主な内容を知っている ・ 近年の中央教育審議会の主な答申等の内容を知っている ・ 全国学力・学習状況調査の最新の結果を知っている など	0.0		
B7	教育の理念・歴史・思想について理解し、自らの教育観を深めることができる	・ 教育の理念・歴史・思想について調べたり、それらに関する書物を読んだりしている ・ 教育の理念・歴史・思想に関する知識に基づき、現代の教育課題について自分なりの意見を持っている など	0.0		
B8	教育課程の意義や編成の方法について基本的事項を理解している	・ 学習指導要領や学習指導要領解説（総則編）の主な内容を知っている ・ 子どもの実態や地域の特性を生かしたカリキュラム開発の具体例を挙げることができる など	0.0		
B9	子どもに対して正しくわかりやすい言葉づかいができる	・ 子どもの模範となるような言葉づかいができる ・ 子どもが理解しやすい言葉づかいができる など	0.0		
B10	学校生活の様々な場面で子どもの興味・関心・意欲を喚起するための工夫を行うことができる	・ 授業において教材の内容や提示の仕方を工夫することができる ・ 子どもの興味・関心・意欲を高めるような褒め方ができる など	0.0		
B11	人権を尊重しながら子どもにかかわることができる	・ 子どもの人格を傷つけるような言動を行わない ・ 子どもの多様な考え方や文化を尊重できる ・ いかなる場合においても体罰を行わない など	0.0		
B12	子どもの安全管理に関する基礎的知識を有し、指導に活かすことができる	・ 文部科学省や教育委員会の発行する安全管理・指導に関する通知やマニュアルを読んでいる ・ 屋内外で子どもが安全に活動できるよう事前に予防策を講じることができる など	0.0		
B13	素直に他の教師に相談するとともに、他の教師の意見に対して謙虚に耳を傾けることができる	・ 積極的に実習指導教員や他の実習生に相談・質問することができる ・ 実習指導教員等の指導や助言を素直に受け入れることができる など	0.0		

B14	主な情報通信機器の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトなど、基本的なアプリケーションソフトを活用することができる ・様々なデジタルコンテンツを用いた教材研究が行え、授業でのICT活用のイメージを持っている ・著作権、肖像権、ウイルス対策など、基本的な情報モラルに関する知識と対策方法を知っているなど 	0.0		
B15	自らが学校組織の一員であることを理解し、組織内での自らの役割を自覚している	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の主な校務分掌の内容について知っている ・各学校の教育目標や重点課題の重要性とその機能を知っているなど 	0.0		

子ども理解に基づく学級経営・生徒指導

目標分類	到達目標	達成度	評価根拠	自己評価	
C1	子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に関するピアジェやヴィゴツキー等の代表的な理論を知っている ・発達の個人差に配慮し、子どもを理解することができるなど 	0.0		
C2	子ども一人ひとりの特性や心身の状況を生活環境や生育歴を含めて多面的にとらえることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをより良く理解するため、子どもの生活環境について実習指導教員と話している ・子ども一人ひとりの生育歴を、指導要録や保護者面談等により把握することの重要性を知っているなど 	0.0		
C3	子ども同士の関係や仲間集団を把握し、指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間や放課後の様子から子ども同士の様々な関係性を把握することができる ・学級内で生じたトラブルの原因を考える際に、子ども同士の関係性を考慮することができるなど 	0.0		
C4	公平かつ受容的・共感的な態度をもって子どもとかわることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに分け隔てなく公平に接することができる ・子どもの言葉をじっくりと聴き、共感的に理解することができるなど 	0.0		
C5	特別支援教育に関する基礎的知識を有し、子どもの指導や支援に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の意義や理念について知っている ・身体障害、知的障害や発達障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム）などの特性について知っている ・障害のある子どもに対する基本的な学習支援方法を知っている ・子どもの生活場面に即して、障害理解のための指導を行うことができるなど 	0.0		
C6	学級担任の役割と職務内容に関する基礎的知識を持っている	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで学級目標を立てることの意義について知っている ・学級担任の一日の仕事の流れを把握している ・子どもに対する給食指導や清掃指導を行うことができるなど 	0.0		
C7	学級経営案の意義を理解し、作成することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営案を立てることの重要性とその役割について知っている ・学級経営案の作成にあたり、各学校の教育目標や重点課題、児童の実態を踏まえることの必要性を知っているなど 	0.0		
C8	子どもとの信頼関係の重要性を認識し、その構築に努めることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教育において子どもからの信頼を得ることの意義を知っている ・子どもの名前を早く覚えたり、子どもとの約束を守ったりするなど、子どもとの信頼関係を築くための具 	0.0		

		体的な取り組みを行っている など			
C9	教室掲示や座席配置を工夫するなど、子どもが生活や学習をしやすいよう教室環境を整えることができる	・教室内のそれぞれの掲示物にどのような教育的意図があるかを知っている ・班学習等の学習場面に応じて座席配置を工夫することができる など	0.0		
C10	子どもの基本的な生活習慣の重要性を理解し、指導を行うことができる	・整理整頓について指導することができる ・時間を守り規則正しい生活を送ることについて指導することができる など	0.0		
C11	学校の規則や子どもが自分たちで作った決まりを守ることの大切さについて指導することができる	・学級活動での話し合い活動において、子どもが自分たちで決まりを作れるよう指導することができる ・集団活動における約束や決まりを守ることの重要性を子どもに説明できる など	0.0		
C12	子どもの問題行動の背景を多面的にとらえ、対応方法を考えることができる	・子どもの暴力行為の要因を様々な観点から考えることができる ・学級で生じたいじめへの具体的な対応方法を知っている など	0.0		
C13	教育相談の意義、理論や技法に関する基礎的知識を持っている	・予防的な教育相談や問題解決的な教育相談の特徴を説明できる ・傾聴、受容、明確化等の教育相談で用いられる基本的な姿勢を身につけている など	0.0		
C14	キャリア教育の意義を理解し、その指導に必要な理論や方法に関する基礎的知識を持っている	・学校におけるキャリア教育の必要性を説明できる ・小学校段階でのキャリア教育の具体的な場面を挙げることができる など	0.0		

教科等の指導

目標分類		到達目標	達成度	評価根拠	自己評価
D1	学習内容の系統性や各学年間のつながり等を含め、学習指導要領の主な内容を理解している	・各教科等における各学年の目標と内容を知っている ・「学校の教育活動の全体で行う道徳教育の目標」及び「道徳の時間に行う道徳教育の目標と内容」を知っている ・特別活動における各領域の目標と内容を知っている など	0.0		
D2	教科等の内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる	・全ての教科等の内容について学習指導要領に沿って指導するに十分な知識を持っている ・得意な教科等を持ち、特定の分野についての深い知識を持っている ・専門的知識を活かして学習指導案を作成することができる など	0.0		
D3	教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことができる	・学習指導要領において求められる学習内容とのつながりを意識し、教科書の内容を捉えることができる ・各授業の目標を踏まえ、それに適した教材を選択することができる など	0.0		
D4	子どもの実態や地域の特色に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	・地域の特性を生かした教材開発の具体例を挙げることができる ・子どもの実態に合わせて既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができる など	0.0		

D5	主な学習指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導・グループ別指導・個別指導の長所と短所について知っている ・グループ別指導を活かすことのできる授業場面を挙げることができる など 	0.0		
D6	各教科等の内容に即した指導方法について理解し、活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を取り入れた授業の具体例を挙げることができる ・実技の習得を目指した授業における指導上の留意点を知っている ・観察・実験を用いた授業における指導上の留意点を知っている など 	0.0		
D7	板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい書き順で丁寧に板書を行うことができる ・子どもの主体的な学習を促すために発問を工夫することができる など 	0.0		
D8	学習内容の習熟の程度などを踏まえて、個に応じた指導を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの得意分野を見つけ、それを伸ばすような指導を行うことができる ・机間指導等を通じて子どもの習熟度に合わせた個別指導を行うことができる など 	0.0		
D9	子どもの多様な思考を生かしながら、子どもの協同的な学習を促すことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの多様な反応を想定して、協同的な学習を促す学習指導案を作成することができる ・授業において話し合い活動を効果的に取り入れることができる など 	0.0		
D10	授業中の子どもの学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの疑問やつまづきを活かして授業を展開することができる ・授業において子どもの予期せぬ反応を大切に、臨機応変に活かすことができる など 	0.0		
D11	各教科等の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・前後の学年で扱う内容とのつながりを意識するとともに、各教科の年間指導計画の内容を把握している ・年間指導計画を確認した上で、単元計画・本時案を立てることができる など 	0.0		
D12	単元計画と子どもの実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を作成する際に子どもの習熟の程度を把握している ・単元の目標や計画を明確にしたうえで、学習指導案を作成することができる など 	0.0		
D13	授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に自らの授業を振り返るとともに、子どもの反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる ・授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができる など 	0.0		
D14	子どもの学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・目標準拠評価と集団準拠評価の違いについて知っている ・形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法について知っている など 	0.0		

連携・協働

目標分類	到達目標	達成度	評価根拠	自己評価	
E1	子どもに関わる情報を他の教師と共有する	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で子どもの情報を共有すること（報告・連絡・相談）の必要性を説明できる 	0.0		

	る姿勢を持っている	・クラスの子どもの習熟度などについて実習指導教員と話している など			
E2	様々な場面で他の教師と協働する姿勢を持っている	・学習指導場面において積極的に実習指導教員の補助ができる ・実習校や各活動学校園の教師と協力して学級活動や学校行事に取り組むことができる など	0.0		
E3	学校と保護者・地域・他の専門家・他校種との連携の重要性や役割分担について理解している	・保護者・地域との連携が必要な場面の具体例を知っている ・特別支援教育コーディネーターや児童相談所の専門家との連携が必要な場面の具体例を知っている ・小学校と幼稚園や中学校との連携に関する知識を持っている など	0.0		
E4	保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応する姿勢を持っている	・学校に対する保護者・地域の要望の背後にはどのような期待があるのか考えることの重要性を知っている ・保護者との会話の重要性や保護者と積極的にかかわることの意義を知っている ・学校と保護者・地域の立場や視点の違いを尊重することの必要性を説明できる など	0.0		

振り返り

中項目1（省察的実践）

「省察的実践」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。
・常に自らの学びを省察し、課題を見つけて改善することができる

「省察的実践」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料(ファイル)	

中項目2（研究を通じた専門性向上）

「研究を通じた専門性向上」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。
・研究活動を通じて絶えず自らの専門性の向上を図ることができる

「研究を通じた専門性向上」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目3（長期的視野に立つ職能成長）

「長期的視野に立つ職能成長」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。
・長期的視野に立って、自らの職能成長を図ることができる

「長期的視野に立つ職能成長」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目4（社会人としての素養）

「社会人としての素養」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。
・言葉づかい、挨拶、礼儀、マナーなどの社会人としての常識を身につけている
・集団での活動において、リーダーシップを発揮することができる

- ・自らのストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる
- ・日本及び外国の文化・歴史、環境問題、平和問題等についての幅広い知識を持っている

「社会人としての素養」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目5（教師としての素養）

「教師としての素養」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・教師としての使命感を持ち、その役割と職務内容を理解している
- ・教育に関する社会的・制度的事項を理解し、現代の学校教育の課題を把握することができる
- ・教育の理念・歴史・思想について理解し、自らの教育観を深めることができる
- ・教育課程の意義や編成の方法について基本的事項を理解している
- ・子どもに対して正しくわかりやすい言葉づかいができる
- ・学校生活（園生活）の様々な場面で子どもの興味・関心・意欲を喚起するための工夫（活かす工夫）を行うことができる
- ・人権を尊重しながら子どもにかかわることができる
- ・子どもの安全管理に関する基礎的知識を有し、指導に活かすことができる
- ・素直に他の教師に相談するとともに、他の教師の意見に対して謙虚に耳を傾けることができる
- ・主な情報通信機器の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる
- ・自らが学校（園）組織の一員であることを理解し、組織内での自らの役割を自覚している

「教師としての素養」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目6（子ども理解）

「子ども理解」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる
- ・子ども一人ひとりの特性や心身の状況を生活環境や生育歴を含めて多面的にとらえることができる
- ・子ども同士の関係や仲間集団を把握し、指導に活かすことができる
- ・公平かつ受容的・共感的な態度をもって子どもとかわることができる
- ・特別支援教育に関する基礎的知識を有し、子どもの指導や支援に活かすことができる

「子ども理解」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目7（学級経営）

「学級経営」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・学級担任の役割と職務内容に関する基礎的知識を持っている
- ・学級経営案の意義を理解し、作成することができる（幼稚園教員には該当しません）
- ・子どもとの信頼関係の重要性を認識し、その構築に努めることができる
- ・教室掲示や座席配置を工夫するなど、子どもが生活や学習をしやすいよう教室環境を整えることができる（保育室の掲示や座席配置を工夫するなど、子どもが生活しやすいよう環境を整えることができる）

「学級経営」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目8（生徒（子どもの）指導）

「生徒（子どもの）指導」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・子どもの基本的生活習慣の重要性を理解し、指導を行うことができる

- ・学校（園）の規則や子どもが自分たちで作った決まりを守ることの大切さについて指導することができる
- ・子どもの問題行動（気になる行動）の背景を多面的にとらえ、対応方法を考えることができる
- ・教育相談の意義、理論や技法に関する基礎的知識を持っている
- ・キャリア教育の意義を理解し、その指導に必要な理論や方法に関する基礎的知識を持っている（幼稚園教員には該当しません）

「生徒（子どもの）指導」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目9（内容理解）

「内容理解」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・学習内容の系統性や各学年間のつながり等を含め、学習指導要領の主な内容を理解している（遊びの意義を含め、幼稚園教育要領の主な内容を理解している）
- ・教科等の内容（保育内容）に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる
- ・教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことができる
- ・子どもの実態や地域の特徴に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる

「内容理解」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目10（授業方法・指導技術（保育方法））

「授業方法・指導技術（保育方法）」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・環境を通じた指導方法について理解し、活用することができる（幼稚園教員のみ求められます）
- ・主な学習指導方法（保育方法）の長所と短所を理解したうえで、学習（保育）の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる
- ・各教科等の内容（保育内容）に即した指導方法について理解し、活用することができる
- ・板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている（言葉の掛け方など保育を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている）
- ・学習内容の習熟の程度（子どもの興味関心）などを踏まえて、個に応じた指導を試みることができる
- ・子どもの多様な思考を生かしながら、子どもの協同的な学習（経験や学び）を促すことができる
- ・授業中の子どもの学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる（子どもの状況や発言に配慮し、柔軟な保育の展開を試みることができる）

「授業方法・指導技術（保育方法）」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目11（授業（指導）計画）

「授業（指導）計画」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・各教科等の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる（長期の指導計画の内容を理解し、短期の指導計画に反映させることができる）
- ・単元計画と子どもの実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる（子どもの実態を踏まえ、指導案を作成することができる）

「授業（指導）計画」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目12（授業（保育）研究）

「授業（保育）研究」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・授業研究（保育研究）の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる

「授業（保育）研究」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目13（学習（保育）評価）

「学習（保育）評価」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・子どもの学習（育ち）に対する主な評価の方法を理解し、学習指導（指導）に活かすことができる

「学習（保育）評価」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目14（他の教師との連携・協働）

「他の教師との連携・協働」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・子どもに関わる情報を他の教師と共有する姿勢を持っている
- ・様々な場面で他の教師と協働する姿勢を持っている

「他の教師との連携・協働」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目15（保護者・地域等との連携・協働）

「保護者・地域等との連携・協働」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・学校（園）と保護者・地域・他の専門家・他校種との連携の重要性や役割分担について理解している
- ・保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応する姿勢を持っている

「保護者・地域等との連携・協働」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

リフレクションミーティングを終えて

コメントや感想等を入力しましょう。

全体を通しての自己評価	
教員からのコメント	
他の学生からのコメント	
コメントに対する感想等	

年間の振り返り

今年度の自分の成長について振り返りましょう。

ベストレポート1	
ベストレポート1を選んだ理由	
ベストレポート2	
ベストレポート2を選んだ理由	

考えたこと、新たに身に付けたこと	
自分の短所や苦手なことで克服したこと	
現時点でのめざす教師像	
第三者から見た長所・短所	
次年度に取り組みたい自己の課題	
メモ	